

社 会 科 教 室

第 1 4 1 号

平成11年度総会特集号

- ・ 組 織 と 運 営
- ・ 年 間 計 画
- ・ 研 究 主 題
- ・ 会 員 名 簿

香川県小学校教育研究会社会部会
香 川 県 社 会 科 教 育 研 究 会

より結束・再燃せよ！切磋琢磨の心意気もち ～不易と流行を見定めて～

香川県小学校教育研究会社会科部会
香川県社会科教育研究会
会長 丸野 忠義

平成10年度は、平成11年2月に全小社研香川大会を高松の亀阜小・四番丁小、坂出の中央小で開催しましたところ、約3,000名の参加を得、「香社研ここにあり」と香社研の名声を全国にアピールし、盛会かつ成功裏に終えることができました。

本年度は、その大会の成功を広め、深めるとともに、「理論の平易化と実践の日常化」を目指した「社会科の基礎・基本からカリキュラムを創る」研究・実践のスタートの年度にしたいと考えています。

昨年12月に新小学校学習指導要領が告知され、平成14年度から全面実施されることになりました。その改訂のねらいは、「各学校」が「ゆとり」の中で「特色ある教育」活動をすることです。その中で子どもに豊かな人間性や基礎・基本を身につけ、個性を生かし、自ら学び、自ら考える「生きる力」を培うことです。

こうした教育改革を目指す新教育課程の中で、「社会科学習はどのような内容をどのように展開して行けばよいか」という課題意識に立ち、本年度の中心テーマを教育改革の具現化の姿としての「社会科学習をどう構想・実践するか」としました。

この研究・実践に際しては、昨年度の大会で社会科授業の基底とした「社会科基底単元の構想～内容の厳選と課題単位による展開～」をベースにしながら、各地域・学校の特色が生きる取り組みにしたいと考えています。そのためには、各地域の学校がその研究の経過や力点を定めつつ、新学習指導要領に準拠した「社会科基底単元の構想」の理論に磨きを掛けるために切磋琢磨する実践交流の土壌を設けることが肝要です。それは、昨年度の全小社研香川大会での成果を広げたり、加工・修正したりしながら深めることになるからです。

つまり、こうした研究・実践は、「社会科基底単元の構想」の編成が意図する香川県下のどの学校もが、社会科学習の教育課程を編成するにあたり、社会科単元の基底として活用することにつながると考えます。

今こそ、伝統と歴史である不易と流行を見定め歩む香社研が結束・再燃し、香社研の組織の充実・発展する、また、広くは社会科教育への貢献をするために切磋琢磨する好機であると考えます。

尚、平成11年7月30日の大野小学校での夏の研修会、また、香社研各郡市での定例会が大いなる研究成果を挙げられますことを祈念いたしますとともに、多くの方々のご協力と温かいご指導・ご助言を心からお願いいたします。

平成10年度定例研究集会・夏季研修会 回顧

1 本年度の定例研究集会

○6月定例会（三観）

- ・月 日 6月20日
- ・授 業 「武士の文化と民衆の成長」（6年）
- ・授業者 赤坂 光敏（観・一ノ谷小）
- ・提案者 合田 雅気（三・本山小）
- ・指導者 柴田 英明 先生

○7月定例会（大川・小豆）

- ・月 日 7月4日
- ・提案者 松村 和仁（大・津田小）
役重 和雅（小・安田小）
- ・指導者 森 正彦 先生

○9月定例会（坂出・綾歌）

- ・月 日 10月3日
- ・授 業 「これからの工業と環境－豊島から日本の工業を見つめ直そう－」（5年）
- ・授業者 林 聖士（綾・国分寺南部小）
- ・提案者 平野希代子（綾・国分寺南部小）
- ・指導者 川中 祥照 先生

○10月定例会（木田・香川）

- ・月 日 10月17日
- ・授 業 「世界の中の日本人の活躍－小林寿太郎・野口英世・北里柴三郎を通して－」（6年）
- ・授業者 野土 裕彦（香・大野小）
- ・提案者 橋本 英敏（香・安原小）
- ・指導者 森 正彦 先生

○11月定例会（高松）

- ・月 日 11月7日
- ・授 業 「香川の職人技を調べて『職人物語』に表そう」（5年）
- ・授業者 南原 志伸（高・木太小）
- ・提案者 上井 嘉（高・亀阜小）
稲田 耕一（高・中央小）
- ・指導者 森 正彦 先生

○1月定例会（丸亀・仲善）

- ・月 日 1月30日
- ・授 業 「これからの工業と環境－地球環境を守れるのは僕たちだ・桜川を守る－」（5年）
- ・授業者 坂倉 徹（仲・多度津小）
- ・提案者 川田 真司（仲・仲南西小）
合田 吉宏（丸・城東小）
- ・指導者 萩田 裕之 先生

2 夏季研修会

- ・月 日 7月31日
- ・場 所 ミューズホール、ラポール高松
- ・内 容 本部提案、会場校提案、
課題別研究集会（全国大会に向けて）
- ・講 演 文部省教科調査官 北 俊夫 先生
 文部省教科調査官 押谷 由夫 先生
 筑波大学教授 高野 尚好 先生

3 定例研究集会・夏季研修会を振り返って～成果と課題～

2月11日（木）、12日（金）に開催される全国小学校社会科研究協議会を控えて、6月の三観から1月の丸亀・仲善に至るまで、内容の充実した定例研究集会が続いた。これも、全国大会に向けて、会を盛り上げていこうとする香社研のメンバー一人一人の心意気の現れでないだろうか。

以下、この一年間の足取りを振り返ってみたい。

口火を切った6月の三観集会では、闘茶から侘び茶へという飲茶の変遷を基に、北山文化から応仁の乱、そして東山文化へという室町時代の大きな時代像を描いていく授業が展開された。

続く7月の大川・小豆集会では認知過程を重視した個の指導の在り方や教科統合など新指導要領をにらんだ実践が発表された。

夏季研修会では、指導要領改訂作業の中にもかかわらず、3人の講師をお迎えするという幸運に恵まれた。本部提案、そして各会場校の提案も行われ、全国大会に向けての方向性が大きく打ち出された会となった。

9月の坂出・綾歌集会では、環境問題に揺れる豊島を題材にしたダイナミックな授業が展開された。反対運動に携わっている方をゲストティーチャーに迎え、話を伺う中で、この問題の重要性やその人の生き様が感じられる実践であった。

10月の木田・香川集会では、台風による警報発令により授業を中止するというハプニングが起きた。しかし、その中でも両郡の提案と討議が繰り広げられ、研究にかける熱い思いの伝わってくるような会となった。

11月の高松集会では、国語と社会科の教科統合による授業が展開された。「桜花片」の表現と地域の職人さんの技にかけた思いや願いを結びつける、先見性に富んだ実践であった。

全国大会を目前に控えた1月の丸亀・仲善集会では、桜川という川に密着した体験的な学習が展開された。丹念な調べと共に、地域環境に対する自分の役割を語る、子どもの生き生きとした表情が印象的な授業だった。

どれも、私たちに何らかの指針を与えてくれる会であった。

来年度もさらなる発展、充実を目指して、実践を積み重ねていかなくてはと思う。

◆◆◆◆◆ 大会概要 ◆◆◆◆◆

- 1 期 日 平成11年2月11日(木) 第1日目(建国記念の日)
12日(金) 第2日目
- 2 会 場 第1日目2月11日(木) 全体会 記念シンポジウム
高松市民会館 高松市番町1丁目8番22号 TEL (087)839-2888
第2日目2月12日(金) 会場校別研究会
第1会場 高松市立四番丁小学校 高松市番町1丁目5番1号
TEL (087)851-8390 FAX (087)851-8391
第2会場 高松市立亀阜小学校 高松市亀岡町10番1号
TEL (087)861-2013 FAX (087)861-2040
第3会場 坂出市立中央小学校 坂出市寿町3丁目1番2号
TEL (0877)46-2124 FAX (0877)46-2147

3 各会場校の特色ある研究主題

第1会場 ～地域文化をつくる教育～

高松市立四番丁小学校

○文豪「菊池寛」を生んだ文化、情報の拠点「サンポート高松」の未来都市づくりに課題をもつ体験を軸として

第2会場 ～一人立ちの教育～

高松市立亀阜小学校

○瀬戸内の歴史・文化を峰山・瀬戸内海・玉藻城から探り、新しい文化を発信することに課題をもつ体験を軸として

第3会場 ～豊かな生き方を探究する教育～

坂出市立中央小学校

○先人「久米通賢」と塩づくり・わが町坂出の再発見・サウサリート市等との国際交流からの発信に課題をもつ体験を軸として

- 4 主 催 全国小学校社会科研究協議会 四国地区小学校社会科研究協議会
四国四県社会科教育連絡協議会 香川県小学校教育研究会
香川県小学校教育研究会社会科部会
- 5 後 援 文 部 省 香川県教育委員会 高松市教育委員会
坂出市教育委員会 香川県小学校長会 (社)香川県教育会
香川県教育弘済会 西日本放送 四国新聞社
NHK高松放送局
- 6 講 師 文部省教科調査官 押谷由夫先生
文部省教科調査官 北俊夫先生
筑波大学教授 高野尚好先生

7 記念シンポジウム 3人の講師によるシンポジウム

8 日 程

○第1日目 2月11日(木) 全体会

13:00	13:30	14:00	14:50	16:10
受 付	開 会 式	全 体 会 ・基礎提案・3校提案	記念シンポジウム ・3人の講師による	閉 会 式 (各県代表交流会)

○第2日目 2月12日(金) 会場別研究会(各会場校)

9:00	15:00	16:00
受 付	各会場校別の日程による	講 演 閉 会

平成11年度の組織と運営

(1) 組織について

① 本部役員

	氏 名	学 校 名	〒 学校所在地	学 校 電 話
会 長	丸 野 忠 義	坂・東 部 小	762 坂・室町1-1-21	0877-46-0234
副会長	大 西 孝 典	観・常 磐 小	768 観・植田町365	0875-25-2988
	関 根 建 一	綾・羽床上小	761 綾・綾上町羽床上788-1	087-878-0820
	植 松 勝	香・大 野 小	761 香・香川町大野1045-1	087-885-2165
会 計	上 川 敦 生	高・木 太 小	761 高・木太町3480-1	087-861-6337
監 査	古 市 聖 治	大・長 尾 小	769 大・長尾町東901-1	0879-52-3181

② 顧 問

(歴代会長)

杉岡 茂
糸川 達
岡野 啓
岡田 弘治

神原 萬吉
東原 岩男
亀山 信夫
曾根 照正

高嶋 利市
柳 清茂
川田 豊弘
中田 清

岩倉 良行
池内 博
亀井 達男

③ 常任指導者

池内 博

岡田 弘治

河津 學

④ 事 務 局

〈総 務〉

旅田 敏弘
寺嶋 俊秀

福岡 和信
亀井 健男

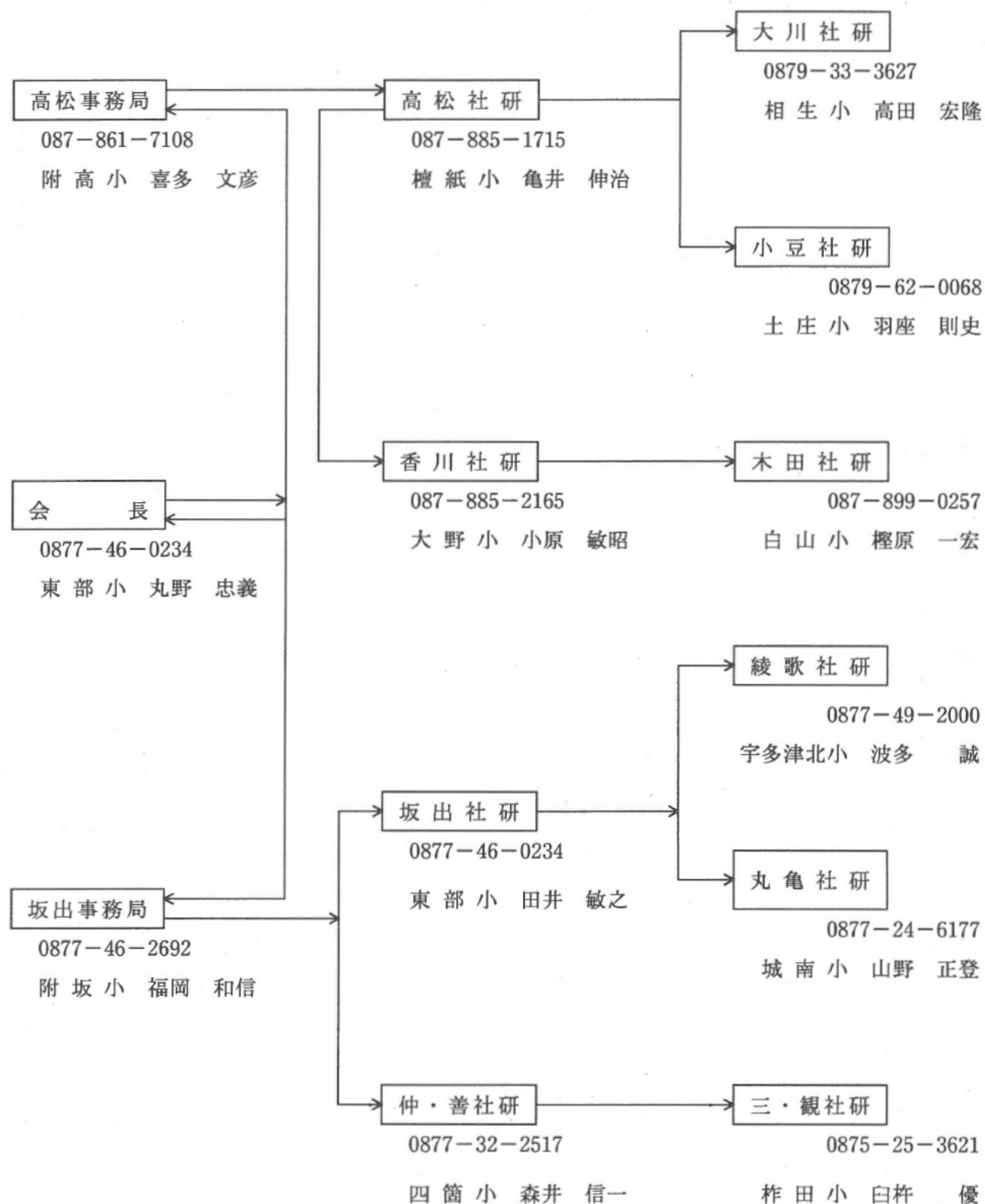
喜多 文彦
佐柳 仁

郡市理事名簿

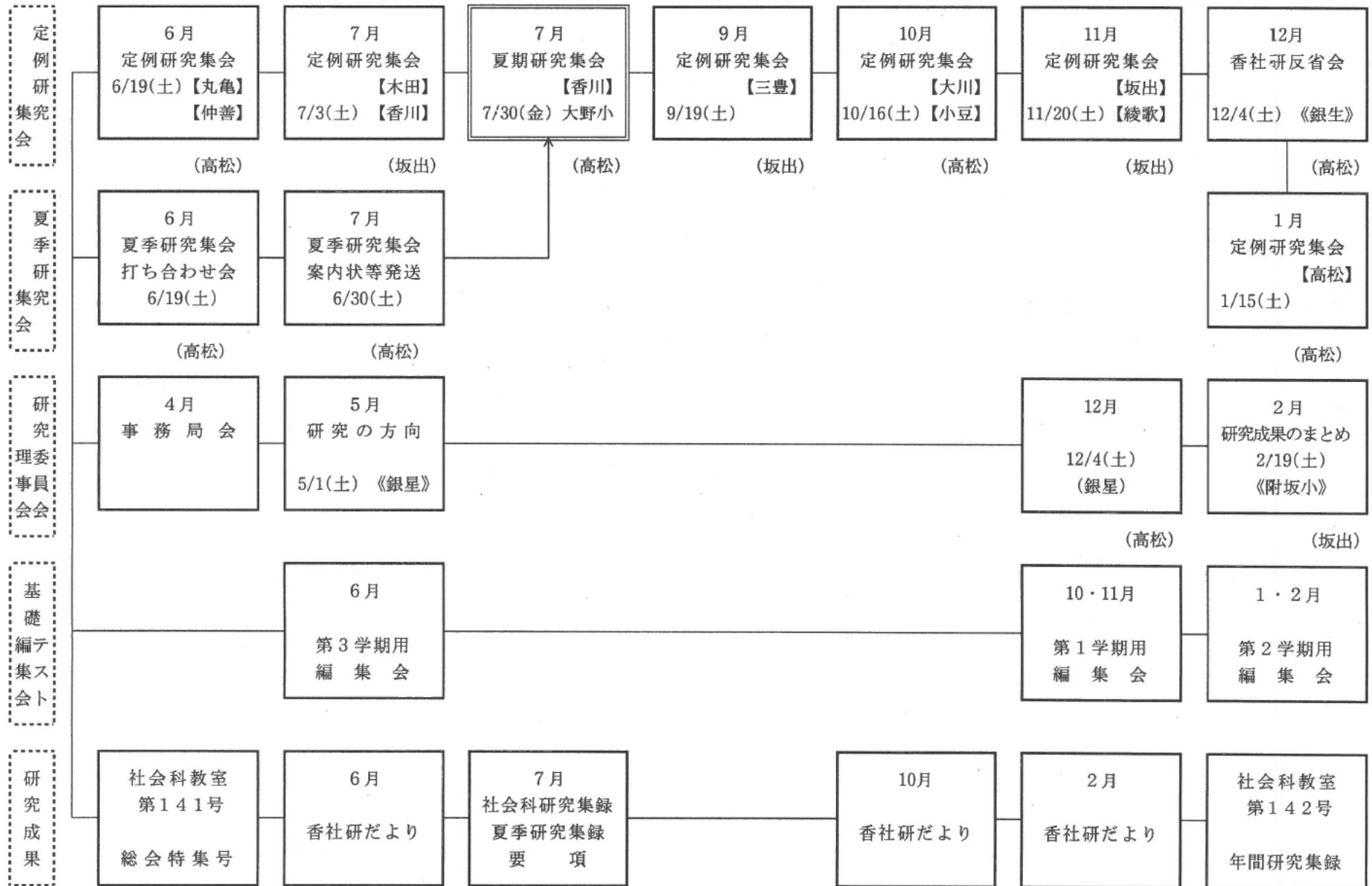
郵便番号	郡市	町名	校名	○	理事名	勤電話
760-0017	高松市	番町	四番丁小		川田裕史	087-851-8390
761-0446	"	東植田町	東植田小		徳田仁司	087-849-0062
761-8042	"	御厩町	檀紙小	○	亀井伸治	087-885-1715
760-0080	"	木太町	木太小		南原志伸	087-861-6337
763-0086	丸亀市	飯野町	飯野小		横田治	0877-22-6019
763-0071	"	田村町	城南小	○	山野正登	0877-24-6177
762-0007	坂出市	室町	東部小		丸野忠義	0877-46-0234
762-0007	"	室町	東部小	○	田井敏之	0877-46-0234
761-4301	小豆郡	池田町	池田小		藤川治之	0879-75-2222
761-4106	"	土庄町	土庄小	○	羽座則史	0879-62-0068
761-0904	大川郡	大川町	松尾小		八木育夫	0879-43-3016
769-2301	"	長尾町	長尾小		古市聖治	0879-52-3181
761-2101	"	志度町	志度小		三井重彰	087-894-0041
769-2903	"	引田町	相生小	○	高田宏隆	0879-33-3627
761-0704	木田郡	三木町	神山小		藤原政志	087-899-0254
761-0130	"	庵治町	庵治小		山下晃	087-871-2581
761-0704	"	三木町	白山小	○	檜原一宏	087-898-0257
761-1701	香川郡	香川町	大野小		植松勝	087-885-2165
761-1701	"	香川町	大野小	○	小原敏昭	087-885-2165
761-2207	綾歌郡	綾上町	羽床上小		関根建一	087-878-0820
769-0101	"	国分寺町	国分寺北部小		平井勉	087-874-1154
769-0208	"	宇多津町	宇多津北小	○	波多誠	0877-49-2000
769-0103	"	国分寺町	国分寺南部小		田中直樹	087-874-1160
761-2408	"	綾歌町	富熊小		末澤康彦	0877-86-2010
766-0017	仲多度郡	満濃町	長炭小		山下清明	0877-79-2006
766-0032	"	多度津町	四箇小	○	森井信一	0877-32-2517
766-0026	"	多度津町	豊原小		山田泰二	0877-32-2050
768-0012	観音寺市	植田町	常磐小		大西孝典	0875-25-2988
769-1504	三豊郡	豊中町	上高野小		西谷則一	0875-62-2064
768-0040	観音寺市	柞田町	柞田小	○	臼杵優	0875-25-3621
768-0101	三豊郡	山本町	辻小		宮武昭裕	0875-63-2037

連 絡 網

香社研連絡網



平成 11 年度の年間計画



社会科の基礎・基本からカリキュラムを創る

～ 社会科基底単元の構想と実践 ～

香川県小学校社会科教育研究会

Ⅰ 研究主題について

1 今なぜ「社会科の基礎・基本」から「カリキュラムを創る」なのか

昨年12月、新学習指導要領が告示された。「豊かな人間性や社会性の育成」、「自ら学び、考える力の育成」、「基礎・基本の確実な定着と、個性を生かす」「各学校が創意工夫を生かし特色ある教育を展開」をねらいとし、子どもに「生きる力」と「ゆとり」をとの提言を踏まえたこの新教育課程の中で、社会科学学習をどのように展開していけばよいのか。本年度の中心テーマを教育改革の具現化の姿としての「社会科学学習をどう構想・実践するか」に置きたい。

そうした中心テーマを定めたときに、以下のような課題が挙げられる。

(1) 総合学習・生涯学習に生きる社会科学学習

知識と生活との結びつき、知の総合化の視点を重視し、社会科で得た知識や技能等が生活において生かされ、総合的に働くようにすることを求めたとき、社会科の基礎・基本をどのようにとらえればよいのか。

(2) 教科固有の本質に立つ社会科学学習

時間的にも、精神的にもゆとりのある教育活動を展開する中で、じっくり学習し、その確実な定着を図ることを求めたとき、社会科の基礎・基本をどのように設定すればよいのか。

(3) 特色ある教育・学校づくりを進める社会科学学習

点としての実践の在り方を越え、新教育課程が求める「各学校の特色ある教育」の核としての展開を求めたとき、領域と配列を考えた社会科のカリキュラムをどう創り上げればよいのか。

(4) 教育課程全体における社会科の位置付けと役割

自我の形成を図り、調和のとれた豊かな人間性や社会性の育成を図ることを求めたとき、教育課程全体の中でどう社会科の役割をとらえ、実践の在り様を定めていけばよいのか。

このような課題の上に立ったとき、今、どうしても「社会科は何を大切にするのか」を「新教育課程全体の中での位置づけや理念の具現化」という文脈の中で考え、「線としての実践」につないでいくことが、大切になってこよう。

「社会科学学習をどう構想・実践するか」を「社会科の基礎・基本からカリキュラムを創る」として研究主題としたのは、これまで述べてきた課題を踏まえてのことなのである。

2 全小社研香川大会の成果を広げ、深める

2月の全小社研香川大会では、約3000名もの参加者を得て、3校の先進的な取り組みを全国に問うことができた。本年度は、3校の取り組みに学びつつ、その成果を実践として広げ、深める時期であると考えられる。

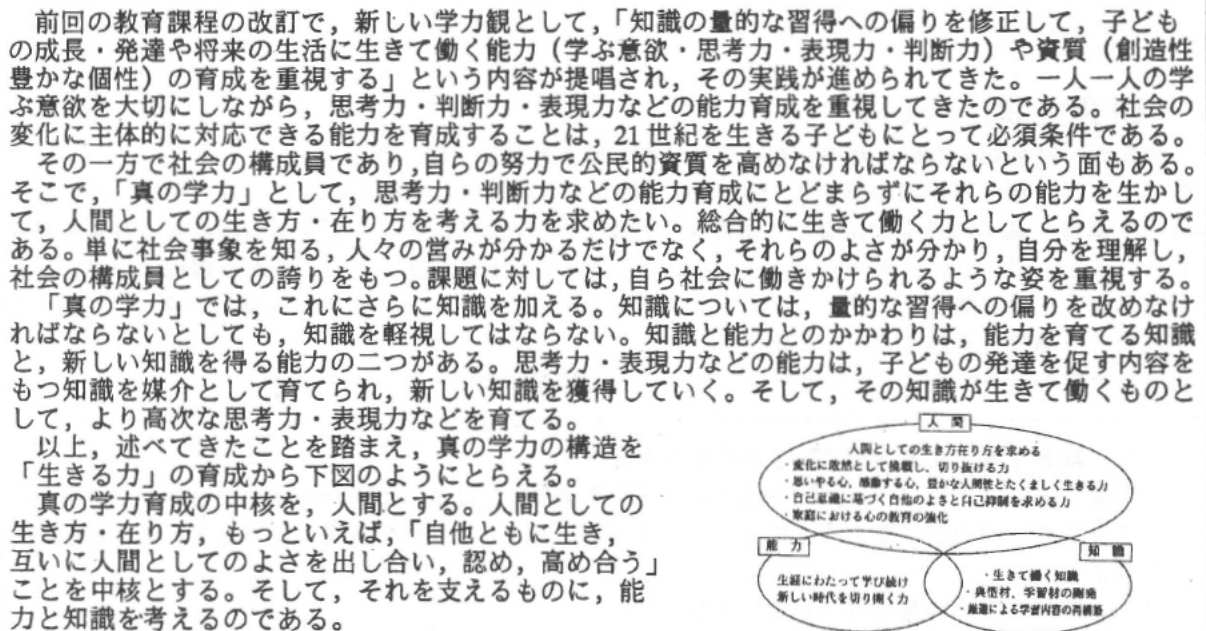
本年度の研究実践の中心テーマとなる「社会科学学習をどう構想・実践するか」については、3校の社会科授業の基底となった「社会科基底単元の構想～内容の厳選と課題単位による展開～」をもとにしながら、各地域・学校の特色が生きる展開を研究・実践できればと思っている。各地域がその研究の経過や力点を定めつつも、交流の土俵を社会科基底単元に同じくすることが、全小社研の成果を広げ、深めるものと考えられる。社会科基底単元の構想が、実践の裏づけを得て、修正されると同時に、より詳細なものへと向かっていく。このことが、全小社研の成果を香社研の研究に生かしていくことなのである。

こうしたことを通じて、社会科基底単元の作成が意図する「香川県下のどの学校もが、社会科学学習の教育課程を編成するにあたり、社会科単元の基底として活用する」に、少しずつ近づいていきたいと考えている。

3 研究実践にあたっての手がかりとして

(1) 真の学力構造から社会科の基礎・基本を考える

教育の新たな枠組みを構築し、今後を見通した実践の姿を追求していく上での前提となる「学力の構造」について、これまで次のようにとらえてきた。以下は、「真の学力を人間・能力・知識からみる」と項目を付け、学力構造について提案してきた内容である。



この学力構造をもとに、社会科の基礎・基本もとらえていきたい。「時間的にも、精神的にもゆとりのある教育活動を展開する中で、じっくり学習する」と示されているが、授業時間数は、削減されているのが現実である。その中で、何を基礎・基本ととらえるかの視点は、真の学力構造から導かれる「人間としての生き方・在り方」が中核であり、さらにそれを支える「学ぶ意欲に支えられた能力」と「生きて働く知識」であろう。何を基礎・基本とするかの論議と実践の追求にあたっては、この構造を踏まえながらを前提としたい。

これらは、社会科の本質である「社会認識を深め国際社会に生きる民主的・平和的な国家・社会の形成者としての公的資質を育成すること」と結びつけた「社会認識の内容としての知識・理解」、「社会認識を深める諸能力」、「公民としての社会的態度・能力」と軌を一にするものと考えている。

(2) 基礎・基本のとらえ方の基調を考える

教育内容を「基礎的・基本的なものに精選する」は、教育課程の改訂のたびに繰り返し強調されてきたことである。今回が3度目になる。精選を「厳選」と言い換えても、その基調がかわらなければ従来の踏襲にすぎず、お題目に終わってしまうことにもつながる。そういった点から、基礎・基本のとらえ方の基調を考えるということで、以下の2点を挙げ、今後の研究・実践の手がかりを示したい。

① 教材・学習材をめぐる

従来、「基礎・基本」の徹底や定着を目指した学習の実践があいまいになってきたのには、各教科において学習の目標とされている「児童が習得すべき教科の基本的な概念や、それらを使用する能力・技能などの『教科内容』と、これらの学習のために利用される『教材・学習材』との区別がつけられず、混同されていることがあるのではないだろうか。教科内容を減らすことと、教材・学習材を少なくすることとが同じに考えられてしまっている傾向がある。

教科内容と教材とは別の次元の問題である。教材をむやみに削減し、学習材を限定してしまうことは、学習内容を子どもにとってかえって難しいものになったり、つまらない無味乾燥なものにしてしまうおそれがある。教科内容を厳選することが、一つ一つの内容について学習する時間を十分に確保することにつながる。同時に、多様な興味ある教材・学習材を使って分かりやすく内容を説明したり、深い多面的な追求をしたりすることも可能となると考えたい。

② 基礎・基本の習得をめぐる

基礎・基本は、「繰り返し学習する」ことによって習得されるという考え方から基調の転換を図りたい。半ば無意識的・自動的に遂行される技能の習得には、「繰り返し学習する」ことが必要ではあるが、より高次の知識の習得には、別の方法が必要である。

基礎・基本の学習と「自ら学び自ら考える」体験的で、課題解決的な学習とが、何か別物のようにとらえられている部分がないだろうか。「自らの力で論理的に考え判断する」とか「自ら調べ、まとめ、発表する」といった活動は、「基礎・基本」の学習においても必要なことで、それこそが基礎・基本の確実な定着を図る新しい方策だと考えたいのである。

II 研究の視点と実践への方途

1 学習内容の厳選による、教材の再構成と新社会科の構想 ～基底単元の構想～

(1) 「ゆとり」と「学習内容の厳選」

中教審・教課審の答申の中で、学習内容の厳選の必要性が強調された。自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」の育成を基調とする教育を進めるためには、「ゆとり」のある教育課程を編成することが不可欠であり、どうしても学習内容の厳選を図る必要があるとされた。その具体化の姿としての新指導要領では、単なる知識の伝達や暗記に陥りがちな内容、各学校間学年間・教科間で重複する内容、学校外での活動や将来の社会生活で身に付けることが適当な内容などを削減したり、取り扱いを軽減したりされている。その上で、さらに「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い」の中で、地域の実態や児童の興味・関心等に応じて、厳選して取り上げるようにすることが強調されている。

この学習内容の厳選は、「不易と流行」を踏まえ、学校で身に付けるべき基礎・基本は何かなどを問いつつ徹底して行うべきであり、特色ある学校づくりを進める地域プラン・学校プランを作成する上で、新指導要領告示後も、これからの社会科教育の改善にあたって急務かつ原則となるものである。

(2) 厳選と新社会科の構想

厳選はゆとりを生み出すものになることから、当然学習内容を削っていく必要がある。と同時にこれまで積み上げてきた総合学習、社会科学学習の成果を基盤に、真に子どもの課題意識と学習内容の高まりを生み出す社会科学学習の基礎・基本に立つ教材を「厳しい目で選ぶ、新たに創り上げていく」過程でもある。学力の構造を踏まえ、生きる力を育成する立場から、厳選をどのような点から考えてきたか、また、そのことと新社会科の構想とのかかわりについてはどうか、根本としたものをいくつか挙げておきたい。

ア 総合学習とのかかわり

学校課題の解決を図り、学校教育の柱となる総合学習の実践の中にどのように社会科学学習が組み入れられているか。組み入れられていない社会科学学習にどう軽重をかけつつ、子どもの課題意識を大切にしたい展開を考えるか。

イ 教材開発の視点の明確化（別項で詳述する）

「不易」と「流行」を見つめ、社会の変化を見通した学習内容とするには、どのような視点から基礎・基本の内容をとらえ教材開発していけばよいか。また、学年の発達に応じて、視点の関連をどう図るか。

ウ 子どもの認識の系列についての再考

「易から難」、「単純から複雑」、「近から遠」、「旧から新」など、従来の教材配列のもととなる考え方が、常に子どもたちの学びにとってふさわしいものかについて再考する。
農業単元や工業単元といった領域にこだわった単元の在り方も見直す。

エ 小・中、学校外における関連

歴史学習においては、通史を二度行わないという表現が中教審答申等で挙げられている。小学校らしい歴史学習をどう展開するかは、厳選にあたっての大きな課題である。また、週5日制に向けて、学校外の学習との関連も視野に入れる。

(3) 厳選と新社会科の構想にあたっての基本的な考え方

① 学習内容の選択から社会科の基礎・基本を考える

ア 社会の変化を見通した教材開発の視点の明確化

これからの社会を展望したときに、我が国の社会は様々な面での急速な変化が予想される。それらの変化に対応する教育の在り方が当然模索されるべきである。

反面、教育においては、どんなに社会が変化しようとも「時代を超えて変わらないもの」を大切にしないてはならない。社会の進展の中で「不易」と「流行」を十分に見つめつつ、教材として具現化していくことで、これからを生きる子どもたちの生き方や在り方となって身に付いていくであろう。「国際化、情報化、科学技術の進展等の変化」に対応すること、また、「我が国の歴史や伝統への愛情や、豊かな人間性を希求し、人権を尊重する心」を培うということなど、今の教育、また社会科に託された役割から教材開発にあたっては次の五つの視点を大切にしていきたい。

国際化	国際化社会が進展し、世界の中の日本人としての生き方が求められている。広い視野をもち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化をもつ人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ることが必要である。
情報化	様々な情報が氾濫し、マルチメディア時代となる将来、情報を主体的に処理する力が求められている。情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人的な能力、並びに人間関係の希薄化など情報化の陰の部分も勘案できる資質等の育成が求められる。
環境	環境問題については、国内の環境にとどまらず、地球環境の危機としてとらえなければならない状況となっている。学校教育では、かけがえのない国土や地球の環境に目を向け、人間と自然が共存していく地球としていくために具体的な行動をとる子どもの育成が望まれている。
人間化	子どもたちが将来自己実現を図りながら、変化の激しい社会で生きていく上での基準となる生き方の形成が求められる。豊かな人間性、人権意識、正義感や公正さを重んじる心、自己を律しつつ他者と協調するなどの心を尊いと感じることのできるような人間として育っていくことが重視されている。
文化	我が国が形成されてきた歴史、先達が残してくれた芸術、文学、民話、伝承などを学び、これらを大切にしていこうとする心を養うこと。それを現代に生かし、新たな文化の創造者・発信者として生きていこうとする資質の育成が求められる。

イ 人間観を育てていく教材の開発

社会科で目標とされる「内容についての知識（内容知）」や「方法についての知識（方法知）」をもとにして、「人間についての知識」の重視が求められている。社会の変化を見通す教材の視点とともに、生き方や在り方自体がそこに物語られている教材の開発を目指したい。

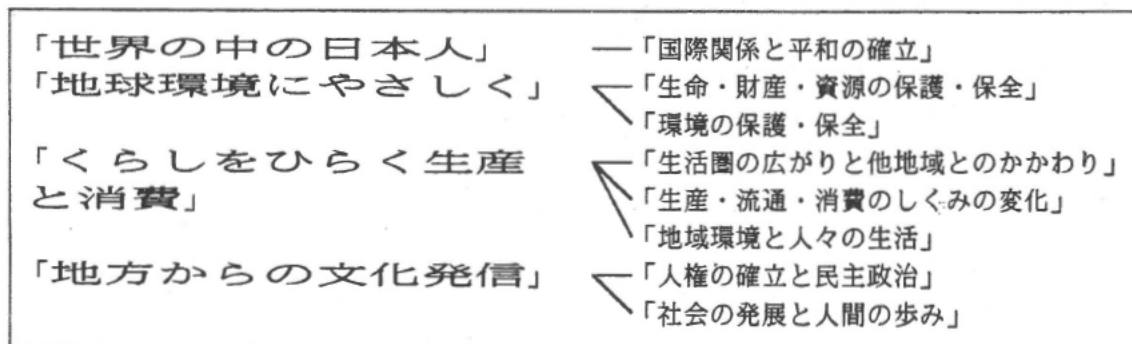
歴史学習を例にとってみる。いくつかの事象をつないで、時代の特徴やイメージについて、自分なりの考えを創り上げていく。その学習の中に、「その時代を生きた人にも、様々な悩みがありそれを乗り越える工夫や喜びがあったはずである」と、そのような人間の心の入ったドラマが描かれていけば、そこから子どもたちは一人の人間の生き方や在り方を考えていけるはずである。時代をたくましく生きる姿に感動し、自らが生きる血や肉にすることができよう。

学習方法の中で、自分で自分を育てよう、たくさんの友達の中で育てようという姿勢で学習方法を見直すとともに、もっと積極的に人間としての生き方を、感動とともに考えられる教材の開発を視野に入れたい。このことが、学力構造の核であり、社会科の基礎・基本とする人間としての生き方・在り方を、子どもたちに見いださせることにつながると思う。

ウ 基本課題と具体課題

現代の教育課題、また社会科に託された役割から、人間観を育てていくことを含めて教材開発の五つの視点「国際化」「情報化」「環境」「人間化」「文化」を大切にす。これまで社会科の教材を構成する上で軸となってきたものも入れて、社会科の学習内容の選択・厳選による教材の再構成においては、次の四つを「基本課題」として設定したい。「世界の中の日本人」「地球環境にやさしく」「くらしをひらく生産と消費」「地方からの文化発信」である。

この基本課題の求める姿が明確になるように、より分化した課題、「具体課題」も下のように設定する。



② 子どもが自ら学ぶという点から社会科の基礎・基本を考える

ア 子どもの課題意識の重視

子どもの課題意識は、必ずしも領域の枠のなかに収まるものではない。生きて働くという視点で考える時、課題解決のためには、ますます多様な領域の内容や方法が必要となってくる。領域という枠組みをはずした学習の場が設けられていることが、子どもの学習意欲を高め、知識構造の変容につながる。

今回、教課審の審議のまとめの中で改善の具体的事項として「生産活動と消費生活に関する内容を集約統合」、「・・・運輸の働きについての内容は、農業や工業などの内容に関連」などが求められ、新指導要領でその具体的な姿が示されているのは、枠組みをはずして、子どもの課題意識を重視しようということと対応していると考えたい。子どもたちの課題意識の連続と深まりの上に立ち、思考力と表現力をつけていくためには、領域の枠を越え、総合的な力を発揮できる学習を構想・実践する必要があると考える。それは一つの単元において、じっくりとゆとりをもって課題に取り組むことができ、自らの確かな知識構造の変容を認めていける学習の場でもある。

イ 領域単元から課題単元へ

現在、子どもの学習内容は、文部省指導書の内容順に書かれた教科書どおりの構成といった領域単元になっている。この領域単元から課題単元へ移行することを大切にしたい。課題単元とは、学年の枠や単元間の枠を取り払い、一つの課題に向かって子どもの意識が連続しつつ、「基本課題・具体課題」の解決を図るよう構成されたものである。

この課題単元によって、従来の教科書単元が限定してしまう領域的で系統的な内容を子どもの課題や地域・学校の実情・課題に応じた単元構成に組み替えることが可能となる。

③ 厳選による教材の再構成 年間計画を含めたカリキュラムづくりという点から

子どもたちが調べたい、学びたいと感じる内容と学び方を大切にするには、時間のゆとりが必要である。しかし、教材のすべてに同様のゆとりをもたせていくことには、難しい部分がある。どうしても、子どもの立場に立った「ゆとりをもたす」厳選による教材の再構成・年間計画づくりが必要となる。この社会科のカリキュラムづくりにあたっては、教科書を中心として基礎的基本的な事項や能力を徹底して学習する単元と、それを基にして深めていく部分に区別した単元配列や、教材によっては選択して学習するなど軽重をつけていくことが必要である。教材提示をしてきちんと学べる教材単元、自ら学ぶ学習である課題単元のバランスを大切にしながら年間計画をつくっていく。この教材単元、課題単元については、次項でさらに説明することにする。

(4) 厳選を図るための具体的方策 — 社会科「課題単元」「教材単元」の構想 —

① 子どもの課題意識と基本課題・具体課題との接点を求める課題単元

身近な事例に直にあたり、自ら学び、考えることのできる「創る学習」の展開が今求められている。従来の領域にこだわった教材の構成（領域単元）から、子どもの課題意識に基づいた構成（課題単元）へと転換する。これまで本項で述べてきた厳選の基本的な考え方に立って、具体的にはどうするかの方策については、次のページの図にあるようにまとめているとおりである。

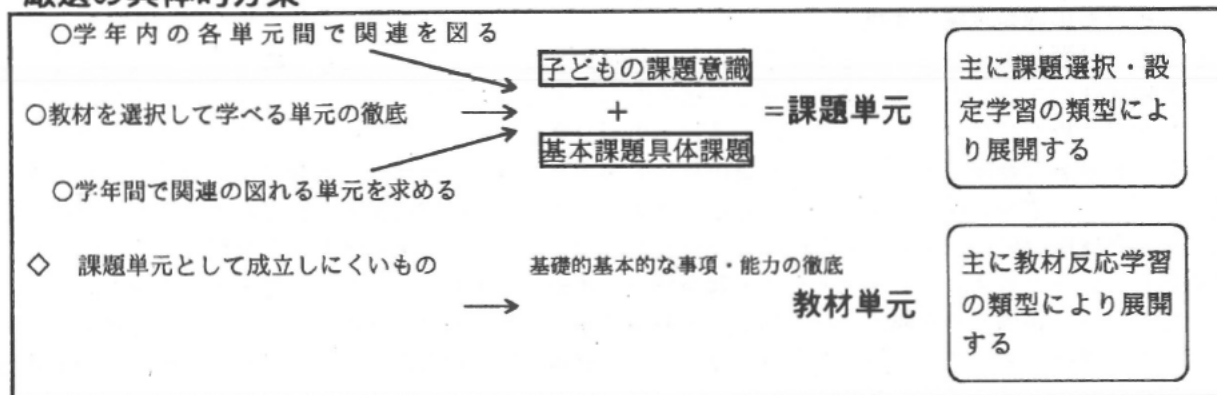
この課題単元づくりにあたっては、「子どもの課題」と、「現代的教育課題等を踏まえた教材開発にあたっての課題」との接点を重んじる。そのことから内容の再構成を考えると、学年間の関連や選択と同時に、学年を越えて継続的に追究される課題単元も構想されていく。3年生からの課題が4年生に引き継がれるという構想や、3年生から6年生、それぞれにその課題について発展的に学んでいくことも視野に入れて研究を進めていきたい。

② 基礎的基本的事項や能力をはぐくむ教材単元

課題単元での子どもの豊かな「創る学習」を支えるものが「学び」を重視した教材単元の展開である。この単元では、基礎的基本的な事項や能力の育成を徹底して行う。地図や資料の正確で有効な読み取り、事項や用語の把握などを図り、きちんと分かることをねらいとする。教師は、子どもの教材への反応を見極め、「個別化」のための支援・援助を行うことを主な役割とする。

以上示した「課題単元」と「教材単元」の組み合わせにより、新社会科を構想し、「社会科の基礎・基本からカリキュラムを創って」いきたい。

厳選の具体的方策



(5) 厳選による教材の再構成 社会科基底単元の構想

以上、(1)～(4)で述べてきたことをもとに、厳選による教材の再構成をプランとしてどうしているのかについて示したい。本研究会では、香川県下のどの学校もが、社会科学学習の教育課程を編成するにあたり、社会科単元の基底とするということから「社会科基底単元」を設定している。これは、本会がこれまで研究実践を進めてきた「内容の厳選」と「課題単元構想」を軸に構成しており、12月に告示された新学習指導要領にも準拠したものである。本年度はこれを基底に、各地域・学校の課題に応じて、「未来に生きる人間づくり」を理念とした、確かな社会科学学習を展開するべく、実践を深め広げていきたい。

昨年度、これまでの実践も含めて、「新学習指導要領準拠 社会科基底単元の構想 一内容の厳選と課題単元による展開」を冊子にまとめた。具体的な実践の姿等については、こちらを参照していただきたい。

この冊子の概要について、以下のように説明しておく。なお、本提案では、社会科基底単元【単元名一覧】以外は、紙面の都合上その一部分だけを載せておくことにする。

社会科基底単元 一課題単元と教材単元による一 【単元名一覧】

学習内容の厳選による、教材の再構成と新社会科の構想にあたって、本県として基底となる単元名の一覧である。これまでの実践の成果や下に挙げた「教材の再構成」等の手順を踏まえつつ、「教課審の審議のまとめ」、「新学習指導要領の目標と内容」を考慮して作成したものである。

基本課題・具体課題からみた社会認識の内容と系統

新学習指導要領に示されている社会認識の内容を、基本課題・具体課題からみたときにどのような構成になっているのかを整理したものである。この課題をもとに、学年内・学年間で関連を図る内容を考慮し、課題単元の構想をしていく。総合学習を実践するにあたって、社会科の内容を統合しようとするときの参考ともなる。自校の総合学習がどのような教育課題の解決を目指しているかに応じて、そこに組み入れる社会科の内容をどうとらえればよいかが分かるよう工夫している。

基本課題からみた 厳選による教材の再構成

基本課題・具体課題とのかかわりの上で3～6年生の教材配列、単元づくりをどうするかを表したものである。社会の変化を見通した教材開発の視点と、これまで社会科の教材を構成する上で軸となってきたものをもとにした、基本課題・具体課題から、教材をどうみるかを一覧できるよう表にしているところに特徴がある。

社会科単元基底案 課題単元・教材単元の概要

単元名一覧に示されたそれぞれについて、その概要を記している。大枠を示すことで、各地域、学校で創意工夫して実践できるようにしている。すでに述べた基本課題・具体課題からみた目標を示しているところに特徴がある。

社会科基底単元－課題単元と教材単元による－【単元名一覧】

3年生

- I 課題単元 「まちをたんけんして、人びとのくらしをさぐろう」
 - ・市町の地形、土地利用、交通、公共施設を絵地図にする
 - ・他地域の友達と絵地図を交換する
 - ・いろいろなまちのくらしがあることを探る
- II 地域選択 「まちのくらしをつくるしごとと、売るしごとからしらべてくらべよう」
 - ・わたしたちのくらしとものをつくるしごとをしらべよう
課題単元として実践する学校と教材単元として実践する学校との交流によって展開
 - ・わたしたちのくらしと売るしごとをしらべよう
課題単元として実践する学校と教材単元として実践する学校との交流によって展開
- III 課題単元 「まちのようすやくらしがかわったことを絵地図にしよう」
 - ・くらしのようすや地域のようすが変わったこと
 - ・昔から変わらないもので、残されているもの
 - ・くらしをよくするよう変えた人物、守ってきた人物

4年生

- I 課題単元 「わたしたちのくらしを守るしごとのようすを絵図にして調べよう」
 - ・くらしの安全を守るしごと（交通事故・火災）
 - ・環境を守るしごと（廃棄物・下水）
- II 課題単元 「わたしたちのくらしを高めた人たちのはたらきをしらべて流れ図にしよう」
 - ・くらしを高めるしごと（上水道）
 - ・水を求めてきた先人の努力
- III 課題単元・教材単元
「県のようにすを調べ、他の土地とくらべて、よさをイラストマップにまとめよう」
 - ・県の特色ある地域の調べ（含 伝統的な技術を生かした生産）
 - ・他地域の特色あるまちづくりからみた県の特色
 - ・地図の見方・読み方、資料の見方・読み方（教材単元として展開）

5年生

- I 課題単元 「スーパーマーケットから農畜生産のようすを調べよう」
 - ・教材単元「わたしたちの国土の地図を開いて、人々のくらしを調べよう」を単元の中に組み入れて実践（環境、地形、生産と交通【人口】、土地利用）
- II 課題単元 「商店街の品物から工業製品の生産のようすを調べよう」
 - ・教材単元「わたしたちの国土の地図を開いて、人々のくらしを調べよう」を単元の中に組み入れて実践（環境、地形、生産と交通【人口】、土地利用）
- III 課題単元 「香川の産業を支えている職人技を調べ、新聞にして情報発信しよう」

6年生

- I 課題単元 「地方史から出発して、日本の歴史を調べ、年表にしよう」
 - ・地域に残る文化財や先人とのつながりのある歴史上の人物や文化遺産と結んで、歴史に対する興味をふくらまそう
 - ・我が国の歴史に残る先人や文化財から選んで、自分の生き方とつないで考え、友達と交流して年表にしよう（教材単元として展開）
- II 教材単元→課題単元
「瀬戸大橋（例）ができるまでと、できてからを調べ、政治とのかかわりの新聞にし、討論しよう」
- III 教材単元→課題単元
「世界の中の日本人としての生き方を論文にしよう」
 - ・日本と深く結びつく国々と人々のくらしの情報を集めよう
 - ・情報を整理して、地球環境と世界平和についての論説文を書こう

～社会科基底単元の構想（香川県版）より抜粋～

基本課題・具体課題から見た社会認識の内容と系統

基本課題	地球環境にやさしく	具体課題	環境の保護・保全
------	-----------	------	----------

(社会認識の内容)

学年	地理的内容	歴史的内容	公民的内容
3年	○地域の人々の生活は、自然環境と深い関係がある。	○自分たちの市や町を中心とした地域の自然や社会環境の移り変わりや生活の変化	○地域の人々は、協力して生活の向上や住みよい環境づくりに努力している。
4年	○飲料水等の確保の対策や事業は地域の健康な生活の維持と向上に役立っている。森林やダムはその点で重要である。	○廃棄物の量や質が変化してきている。また、処理の方法も変わってきている。	○廃棄物の処理についての対策や事業は、地域の健康な生活の維持と向上に役立っている
5年	○国土の保全や水資源の涵養などのために森林資源が大切である。その育成や保護が大切である。	○公害の防止にあたって、工場・国・地方公共団体が対策を進めてきた。	○生活環境を快適にし、国民の健康を保護するため、公害の防止がきわめて大切である。
6年	○環境破壊は自国のみにとどまらず、国境を越えて進行しており、各国で環境の保護に努めることが肝要である。	○人々も公害の防止・対策に協力しなければならない。	(具体事例：大気汚染、水質の汚濁)
		○地球温暖化防止などについては各国政府・国際団体が会議を開き、計画を立てて、地球規模で対策を進めてきている。	○環境の保護保全のために国際連合は大きな役割を果たしている。我が国も国際社会の平和と進展のために、果たさなければならない重い責任と義務がある。

(教育課題からみた解説)

具体課題「環境の保護・保全」を通して解決を図る教育課題は「環境」である。本具体課題は、主に自然環境を対象とする。環境の問題は国内にとどまらず、地球環境の危機としてとらえなければならない現状となっている。学校教育では、かけがえのない国土や地球の環境に目を向け、人間と自然が共存していくために具体的な行動をとる子どもの育成が望まれる。

それぞれの地域の自然条件や様子を調べることで、子どもたちは自然の美しさや大切さに気づくであろう。また、日本の国土そして地球全体の自然の様子やそれに合わせた人間の営みを知ることにより、自然破壊の恐ろしさと、環境の保護・保全の大切さについて学んでいくと考える。

さらに環境との調和を求めて、自然と共に生きようとしてきた、先人の長い間の工夫や努力のあとを探り、自分たちの生活の背景や今後のあり方を地球規模で考えることをここでは目指している。

～社会科基底単元の構想（香川県版）より抜粋～

社会科単元基底案 課題単元・教材単元の概要

課題単元

4年 わたしたちのくらしを高めた人たちのはたらきを調べて流れ図にしよう

主張点

私たちの郷土は、先人の水を求め、大切に活用し開発してきた業績に支えられ現在に至っている。水を求めた開発の歴史と人物の働きを地域の移り変わりの中に位置づけ調べていく。今の豊かで住みよいくらしを支える水を生み出す過程と地域の願いを一体として扱うことが、今の自分のくらしと水のかかわりを見つめ直すことにつながる。水不足を克服する地域の課題の明確化、水源確保に協力してくれる他地域への感謝など、自分の地域の水道の仕組みの理解を超える、香川ならではの地域性を生かした課題単元の構想である。

教育課題から見た社会認識

- 香川県は雨が少なく、水を安定して得たいという願いの実現のために昔から多くの人々が知恵をはたらかせ、努力してきた
- 香川用水の開通や、大型ダムの建設などによって水事情が好転してきた結果、人々の水に対する意識が薄らいでおり、給水量が増えても使用量は増加の一途をたどり、新たな水源を確保しなければならないという悪循環を生んでいる
- 我々も限られた少ない水を有効に使ってきた先人に学び、現在の時代にあった水の有効利用の方法について考えていく必要がある。

単元の概要

学 習 方 法	学 習 内 容
1 地域を歩き、水に関係する事物を調べる。	○地域には、ため池や用水路、新田、香川用水など人がつくった水に関係するものがたくさんある。
2 調べた事物の移り変わりを年表に表現する。	○香川県は雨が少なく昔から水不足で苦しんできた。
地域の水を求めてきた歴史を流れ図を入れた絵年表にまとめよう	○昔の人々は、地形や水の特性を生かして、用水路をつくってきた。水を無駄なく有効に分配するために、水を共同で管理してきた。
3 地域の代表的な水に関する開発と、人の働きを調べ、絵図や模型などにまとめる。	○水を確保するために、西嶋八兵衛（例）によってため池の築造や改修が行われた。
4 今の豊かな水が生み出されるまでを調べ、流れ図にまとめる。	○水を安定供給するために香川用水がつくられた。用水の運用にあたっては広く他地域の協力を得ている。
5 豊かな水を維持するための、他地域の森林を育てる活動を知り今のくらしをふりかえる。	○水がわたしたちの家に届くまでには、多くの人々の工夫や努力がある。上水道はわたしたちの健康な生活にとってなくてはならないものである。
6 水利用に対する自分の考えを絵年表の「これから」の部分に付け加え、絵年表を完成させる。	○水を安定的に得るため、上流部では森林を守る活動が行われている。
	○水道が普及してから生活様式が変化し、多くの水を使うようになってきた。
	○一人一人が、水が有限で貴重な資源であると理解する必要がある。先人の知恵、他地域、外国の取り組みに学び、水を有効に利用する方法を考えていかなければならない。

～社会科基底単元の構想（香川県版）より抜粋～

基本課題からみた 厳選による教材の再構成 (表中 課…課題単位 教…教材単位)

		5 年			
基本課題	具体課題	教材の再構成による厳選プラン		新指導要領からみて	解 説
世界の中の日本人	国際関係と平和の確立			人口や資源の分布などに関する事項は、中学校へ移行する。地図その他の資料を活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考える。	◆について ○ この単元は、教科書の教材配列では、第4学年の「各地のくらしとわたしたちの国土」にある内容を基盤としている。 ・基本図や資料をもとに、環境、地形、人口分布、生産の全国的な傾向や問題点をつかむことをねらいとする。この単元で出てくる視点を教材単位としてⅠ、Ⅱの中に組み込んで実践する。 Ⅰ・Ⅱについて ○ 農業・工業にとどまらず、運輸通信との関連を図った再構成とする。流通や情報の働きに目を向けつつ、領域を超えた課題単位にする。 Ⅲについて ○ Ⅰ、Ⅱで学習した産業を支える人々の職人技に焦点をあて情報発信する。情報の正しい収集や活用の仕方、伝達の方法を身に付けることの大切さを、実践を通して気づく場とする。その過程に新聞社の情報と国民生活とのかかわりや影響について学ぶ場を位置づける。
地球環境にやさしく	生命財産の保護・保全				
	環境の保護・保全	◆私たちの国土の地図を開いて、人々のくらしを調べよう ・環境 ・地形と気候 ・生産と交通 ・土地利用 ・気候条件からみて特色ある地域の人々の生活			
くらしをひらく生産と消費	生活圏の広がり与其他地域とのかかわり			生産地と消費地を結ぶ運輸の働きについて扱う。 工業生産を支える貿易や運輸の働きについて扱う。	
	生産・流通・消費のしくみと情報	Ⅰ スーパーマーケットから農業生産のようすを調べよう Ⅱ 商店街の品物から工業製品の生産のようすをしらべよう 			
	地域環境と人々の生活				
地方からの文化発信	人権の確立と民主政治			技術を生かした内容	
	社会の発展と人間の歩み	Ⅲ 香川の産業を支えている職人技を調べ、新聞にして情報発信しよう			

～社会科基底単元の構想（香川県版）より抜粋～

2 学び方を学ぶ学習 ― 集団の中で個を育てる学習 ―

本研究会では、授業に「ゆとり」をもって問題解決的な学習を展開し、集団の中で個を育てるという立場から、いじめ対策等にも心した、個に応じた授業を試みてきた。その授業改造の観点は、

- | | |
|---|-------------------|
| ・ 問いと論証の過程～認知過程～の探究 | ・ 体験・表現重視による子ども理解 |
| ・ 子どもの感性、感じ方を広げる支援・援助 | ・ 子ども理解に立つ指導案の工夫 |
| ・ よさを生かすことと、自己抑制の力を育てることの両立を図る、「自己意識・自己理解」の究明 | |

である。

豊かでたくましく生きる人間づくりを求める上での、「真の学力の構造」を踏まえ、これからの社会科学学習では、学習論としてどのような理論と実践を展開し、「社会科の基礎・基本からカリキュラムを創る」方策とするのか。これまでの研究の成果からその核となる部分について述べておきたい。

(1) 教材提示型学習からの脱却

新指導要領で示された、「観察や調査・見学、体験などの具体的な活動やそれに基づく表現活動をいっそう展開すること」を受け、社会科学学習の基軸をこうした活動におくとともに、そこから自ら見いだした課題をさらに深めるようにしたい。つまり、「子どもの表現物から課題を見つける」、言い換えると、「子どもの表現・反応を教材化」して学習を展開するのである。そのことで、教師が教材を提示する、言い換えると外発的な動機付けにより始まる学習から脱却したいのである。

本研究会では、次ページに掲げる「四つの調べ方法」と「多様な表現方法」を組み合わせる具体的な活動とそれに基づく表現活動を構想している。しかし、表現が単なる模倣や学習したことのまとめに終わってしまったのでは、「思考力」を育成することにはつながらない。表現したものの操作や再構成等の活動を学習過程に組み込んだり、学習内容やその単元で育成したい思考力に応じた効果的な表現方法を見極めたりして、学習計画を立てることを大切にしたい。

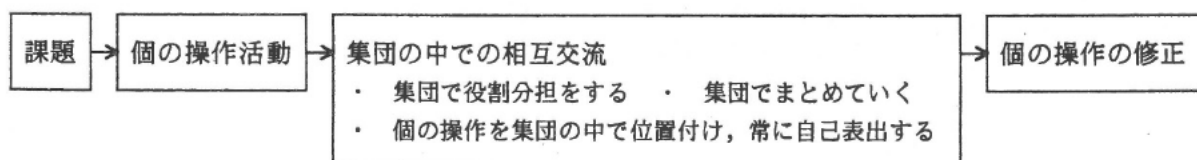
調べ方法	実物調べ	論議調べ	思い出調べ	ひらめき調べ
主な特徴・特色	生の現場で、実物にあたる調べであり、観察・見学・体験により感覚的・身体的に事実をつかむ。	意図的・目的的な調べであり、事実間に関連がなく、調べの意図や目的にあった事実をつかむ。	「つまり」「つらなり」と調べる調べであり、事実間のつながりをつかむ。	意図的な調べでは解決できず、新しい発想から、飛び込ませるものがないかの調べであり、事実と事実の調を導くものをつかむ。
	<調べ問題の基本型> 「……実物にあたるう」	<調べ問題の基本型> 「……をさがしてみよう」	<調べ問題の基本型> 「つなかりを調べよう」	<調べ問題の基本型> 「調の点から探ろう」

具 体 ⇄ 抽 象					
類型	準 作	抽 象	表 現	記 録	足 付
主 要 活 動 内 容	動作化 人形劇づくり 劇づくり 役割表現 こっこ活動等	絵画 立体模型 絵地図 紙芝居 かるた等	しくみ図 構想図 設計図 構成図等	絵と文 新聞 コンピュータ 操作 討論 文章表現等	色カード 印カード等

(2) 個から集団へという道筋の学習からの転換

「集団の中で個が生きる活動」は、新社会科が求める人間づくりを進める上で、ぜひともその学習方法の開発が求められるポイントである。このことの背景には、最近の心理学研究の成果がある。低学年における「個の確立」を踏まえ、中学年の発達課題「活動性」に基づく「仲間づくり」が可能となるという従来の発達観は、誤りではないかといわれている。同心円的に個から集団へいくのではなく、小さいときから集団を意識し、その中で個が生きていく、個がかかわっていくことが大切なのである。

授業の中で主体的な活動を通した友達との相互交流を一層豊かにする。その中で友達と一緒に何かをやり遂げようとし、そこに責任をもとうとする気持ちや我慢する心が育っていく。そういった意味で、集団と個のかかわりから一人一人の責任を明確にし、集団に果たしている役割の自覚をもち、個の活動と集団の活動が互いに影響を与えるような交流を組織する。このことが真の「個性重視の教育」だと考えている。「それぞれの考え方・感じ方を分かり合い支え合う交流」、「個と個が互いに支え合い、理解し、尊重し合い、集団に寄与していく交流」を実現するための要件を次のようにまとめ、授業の基軸としていきたい。



(3) 発問中心の授業の改善

新指導要領が示す「考える」の重視が、「教師の発問から」を中心とするのではなく、自分の表現物を操作しつつ思考を深めていくことで具現化されることが重要である。

そのために大切にしてきたことの一つ目は、操作しつつ思考を深めていくことのできる表現物を、一人一人がもっていることである。子どもが意欲をもち、個の能力に応じた取り組みができるより具象性のある教材としての「学習材」をもとに学習が進められるようにする。

二つ目は、「思考」が成立するための「操作」を表現とのかかわりの上で位置づけることである。思考とは、問題を解決していくための情報処理の働きである。多様な情報を操作していくことが、思考力を育てることにつながる。具体的には、三つの操作が絡み合って思考が成立すると考え実践していきたい。

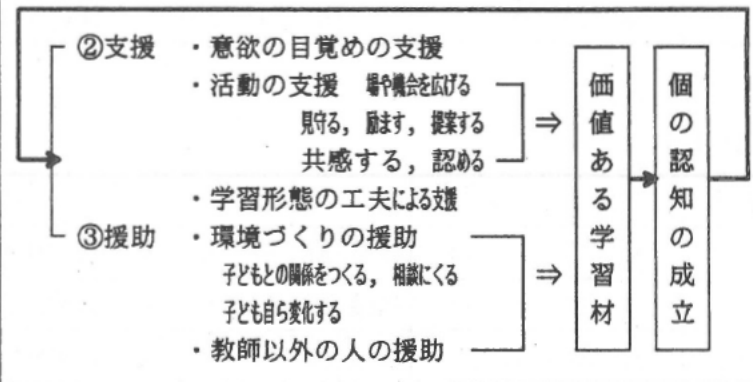
類別思考 (くらべる)		関係思考 (つなぐ)			条件思考 (かえる)		
分 析	比 較	因 果	結 合	総 合	適 応	構 想	観点変更
事象を構成する因子を洗い出し、因子ごとに事象の特質を考 える。	二つの事象を比較して、異同を 考える。	事象間の原因・結果の関係を考 える。	関係している事象間のつながり を考える。	分析した二つ以上の因子をつな いで、新しい概念を考える。	事象に含まれている因子を他の 事象にあてはめることにより、 認識を深化し、拡充する思考で ある。	ひらめき思考、創造的な思考で あり、事実を組み立てながら、 見えなものを発見したり全体 像を描いていく。	見方を変えてみる(たまたま)、因 子の意味をいふ(たまたま)、二つの 事象間の関係を発見する。

(4) 豊かにたくましく生きる人間づくりを求める教師の支援・援助活動

教師の支援・援助というと、すぐに児童に直接助言を与えることだと考えがちである。確かに教師の支援・援助は大きな役割を占めている。ただ、支援・援助活動は、他の児童の相互交流の場を設定したり、環境づくりを行ったりするような間接的なものも含めて幅広いものととらえ、授業で具現化を図ってきた。

このような支援・援助をもとにしつつ、価値ある学習材を媒介にして、自分のよさや不十分な点を友だちの学びや、学習環境の中から見いだしていく。与えられるのを待つのではなく、自らが求めていく子どもの学びの姿を求めたい。

①内容・働き ア 環境による
 イ 教師が子どもに直接かかわる
 ウ 地域や家庭との連携による
量的個人差から質的個人差（認知スタイル・学習スタイル）へ



- 【参考図書】 新学力観に立つ社会科授業
 —「問い」と「論証」の調べ学習—
 香川県小学校社会科教育研究会 著 明治図書
- 個が生きる認知過程の探究
 —真の学力形成を目指す教育課程—
 香川大学教育学部附属高松小学校 著 明治図書
- 新教育課程の構想と実践
 —総合学習・新社会科学習の展開—
 香川県小学校社会科教育研究会 著 明治図書
- 社会科基底単元の構想
 —内容の厳選と課題単元による展開—
 香川県小学校社会科教育研究会 社会科基底単元作成委員会 著

平成11年度 郡市社研役員名簿

【高松社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	川 田 裕 史	校長	四 番 丁 小	高・番町1-5-1	087-851-8390
副会長	上 川 敦 生	〃	木 太 小	高・木太町3480-1	087-861-6337
	宮 武 利 雄	〃	川 岡 小	高・川部町1552	087-885-1253
	上 枝 幸 紀	〃	二 番 丁 小	高・錦町2-14-1	087-851-3741
庶 務	亀 井 伸 治	教諭	檀 紙 小	高・御厩町816	087-885-1715
	南 原 志 伸	〃	木 太 小	高・木太町3480-1	087-861-6337
	岡 本 英 孝	〃	新塩屋町小	高・末広町5	087-851-2011
	大 嶋 和 彦	〃	四 番 丁 小	高・番町1-5-1	087-851-8390
会 計	大 橋 けい子	〃	新塩屋町小	高・末広町5	087-851-2011
研究部	横 井 裕 子	教諭	前 田 小	高・前田東町819-3	087-847-6562
	池 田 理 恵	〃	四 番 丁 小	高・番町1-5-1	087-851-8390
	市 原 茂 幹	〃	亀 阜 小	高・亀岡町10-1	087-861-2013
	稲 田 耕 一	〃	中 央 小	高・松縄町807-1	087-866-2938

【丸亀社研】

役員名	氏 名	職名	勤務校	学 校 住 所	電 話
会 長	横 田 治	校長	飯 野 小	丸・飯野町西分113	0877-22-6019
副会長	香 川 佳 和	教頭	飯 野 小	丸・飯野町西分113	0877-22-6019
	長 原 朱 実	教頭	広 島 小	丸・広島町江の浦439	0877-29-2031
庶 務	久保山 学	教諭	城 西 小	丸・六番丁12	0877-22-9267
会 計	合 田 吉 宏	教諭	城 東 小	丸・土器町西5丁目113	0877-24-4703
研究部	多 田 明 広	教諭	城 南 小	丸・田村町973	0877-24-6177
	高 木 弘 信	〃	城 北 小	丸・瓦町95	0877-24-4700
	小 山 善 弘	〃	広 島 小	丸・広島町江の浦439	0877-29-2031

【坂出社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	丸 野 忠 義	校長	東 部 小	坂・室町1-1-21	0877-46-0234
副会長	丸 野 昭 善	〃	中 央 小	坂・寿町3-1-2	0877-46-2124
	木 本 珠 城	〃	川 津 小	坂・川津町3093-1	0877-46-3884
	廣 田 秀 雄	〃	加 茂 小	坂・加茂町1099	0877-48-0601
	大 前 正 昭	〃	林 田 小	坂・林田町2191	0877-47-0270
	森 口 訓 行	〃	与 島 小	坂・与島町263	0877-43-0101
庶 務 (会計)	田 井 敏 之	教諭	東 部 小	坂・室町1-1-21	0877-46-0234
	大 西 浩 史	〃	櫃 石 小	坂・櫃石585-17	0877-43-0203
研究部	福 家 光 洋	教諭	付 中 小	坂・府中町1193-3	0877-48-0610
	高 尾 久美子	〃	中 央 小	坂・寿町3-1-2	0877-46-2124

【大川社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	八 木 育 夫	校長	松 尾 小	大・大川町田面125	0879-43-3016
副会長	古 市 聖 治	〃	長 尾 小	大・長尾町東901-1	0879-52-3181
	小 倉 健 治	〃	富 田 小	大・大川町富田西2595-2	0879-43-2016
	熊 田 正 美	〃	白 鳥 小	大・白鳥町白鳥525	0879-25-2642
庶 務	三 井 重 彰	教頭	志 度 小	大・志度町大字志度727	087-894-0041
	佐 藤 正 文	〃	造 田 小	大・長尾町造田是弘688-1	0879-52-2141
	高 田 宏 隆	教諭	相 生 小	大・引田町南野204	0879-33-3627
会 計	永 坂 邦 彦	〃	三 本 松 小	大・大内町三本松862-1	0879-25-2664
研究部	松 村 和 仁	教諭	津 田 小	大・津田町津田144	0879-42-2047
	沖 肅 二	〃	誉 水 小	大・大内町中筋425	0879-25-2044
	橋 本 義 人	〃	富 田 小	大・大川町富田西2595-2	0879-43-2016
	穴 吹 眞 二	〃	松 尾 小	大・大川町田面125	0879-43-3016

【小豆社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	藤 川 治 之	校長	池 田 小	小・池田町大字池田1760	0879-75-2222
副会長	池 田 孝 徳	教頭	洺 崎 小	小・土庄町洺崎甲1256	0879-62-0072
庶 務	羽 座 則 史	教諭	土 庄 小	小・土庄町甲657-7	0879-62-0068
会 計					
研究部	川 井 慶 太	教諭	土 庄 小	小・土庄町甲657-7	0879-62-0068
	役 重 和 雅	〃	安 田 小	小・内海町安田甲472-1	0879-82-2012

【木田社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	藤 原 政 志	校長	神 山 小	木・三木町大字奥山987	087-899-0254
副会長	山 下 晃	教頭	庵 治 小	木・庵治町790-1	087-871-2581
庶 務	樫 原 一 宏	教諭	白 山 小	木・三木町大字下高岡352-1	087-898-0257
会 計	藤 岡 正 樹	教諭	白 山 小	木・三木町大字下高岡352-1	087-898-0257
研究部	黒 田 規 代	教諭	庵 治 小	木・庵治町790-1	087-871-2581
	川 西 和 代	〃	庵 治 小	木・庵治町790-1	087-871-2581
	小比賀 容 子	〃	牟 礼 南 小	木・牟礼町大字大町1115-1	087-845-9324

【香川社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	植 松 勝	校長	大 野 小	香・香川町大字大野1045-1	087-885-2165
副会長	西 康比古	教頭	直 島 小	香・直島町1600	087-892-3007
庶 務	小 原 敏 昭	教諭	大 野 小	香・香川町大字大野1045-1	087-885-2165
会 計	中 田 由紀恵	教諭	大 野 小	香・香川町大字大野1045-1	087-885-2165
研究部	野 土 裕 彦	教諭	大 野 小	香・香川町大字大野1045-1	087-885-2165
	喜 岡 永 光	〃	川 東 小	香・香川町大字川東上1865-8	087-879-2012
	高 岡 直 子	〃	香 南 小	香・香南町大字横井1008	087-879-2269

【綾歌社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	関 根 建 一	校長	羽 床 上 小	綾・綾上町羽床上788-1	087-878-0820
副会長	坂 東 博 文	教頭	陶 小	綾・綾南町大字陶5878	087-876-1182
	平 井 勉	〃	国分寺北部小	綾・国分寺町新居1880	087-874-1154
庶 務	波 多 誠	教諭	宇多津北小	綾・宇多津町浜八番丁115	0877-49-2000
	田 中 直 樹	〃	国分寺南部小	綾・国分寺町福家甲3005	087-874-1160
	末 澤 康 彦	〃	富 熊 小	綾・綾歌町富熊1227	0877-86-2010
会 計	末 澤 康 彦	〃	富 熊 小	綾・綾歌町富熊1227	0877-86-2010
研究部	宇 山 知 昌	教諭	国分寺北部小	綾・国分寺町新居1880	087-874-1154
	眞 井 孝 征	〃	国分寺南部小	綾・国分寺町福家甲3005	087-874-1160
	氏 家 敏 文	〃	飯 山 小	綾・飯山町川原1874	0877-98-2020
	高 吉 直 之	〃	粉 所 小	綾・綾上町粉所西甲2060	087-878-2312

【仲善社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	山 下 清 明	校長	長 炭 小	仲・満濃町大字炭所西1431-2	0877-79-2006
副会長	森 本 義 臣	教頭	西 小	仲・琴南町造田1984-1	0877-85-2010
庶 務	森 井 信 一	教諭	四 箇 小	仲・多度津町大字三井433-1	0877-32-2517
	山 田 泰 二	〃	豊 原 小	仲・多度津町南鴨704	0877-32-2050
会 計	佐々木 和 恵	教諭	竜 川 小	善・原田町306-1	0877-62-0705
	澤 田 恵 子	〃	仲 南 東 小	仲・仲南町大字七箇2529	0877-77-2140
研究部	森 昭 二	〃	善・東部小	善・稲木町450-1	0877-62-0703
	坂 倉 徹	〃	多 度 津 小	仲・多度津町栄町三丁目1-9	0877-33-1616
	北 分 英 樹	〃	四 条 小	仲・満濃町大字四條728	0877-73-5514
	山 内 秀 則	〃	琴 平 小	仲・琴平町145-1	0877-73-2831

【三豊社研】

役員名	氏 名	職名	勤 務 校	学 校 住 所	電 話
会 長	大 西 孝 典	校長	常 磐 小	観・植田町365	0875-25-2988
副会長	西 谷 則 一	〃	上 高 野 小	三・豊中町上高野2384	0875-62-2064
	大 山 正 子	〃	豊 浜 小	三・豊浜町大字和田浜1000	0875-52-2029
庶 務	白 杵 優	教諭	杵 田 小	観・杵田町乙1000-1	0875-25-3621
	宮 武 昭 裕	〃	辻 小	三・山本町大字辻1375	0875-63-2037
会 計	白 杵 優	教諭	杵 田 小	観・杵田町乙1000-1	0875-25-3621
研究部	赤 坂 光 敏	教諭	詫 間 小	三・詫間町大字詫間2158	0875-83-2858
	合 田 雅 気	〃	本 山 小	三・豊中町大字本山甲1893	0875-62-2125

【高 松 市】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 檀 紙 小	亀 井 伸 治	T ・ T
	② 築 地 小	福 家 親 夫	3 年
	③ 木 太 小	南 原 志 伸	6 年
研 究 部	① 前 田 小	横 井 裕 子	1 年
	② 四 番 丁 小	池 田 理 恵	6 年
	③ 亀 阜 小	市 原 茂 幹	6 年
基 テ礎 ス・ ト 部	① 中 央 小	稲 田 耕 一	6 年
	② 鶴 尾 小	黒 川 浩 一	4 年
	③ 香 西 小	葛 西 秀 樹	5 年

【丸 亀 市】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 小 手 島 小	石 川 裕 之	5 ・ 6 年
	② 垂 水 小	平 澤 昌 司	3 年
	③ 城 坤 小	岡 田 陽 一	3 年
研 究 部	① 城 南 小	多 田 明 広	4 年
	② 城 北 小	高 木 弘 信	5 年
	③ 広 島 小	小 山 善 弘	5 年
基 テ礎 ス・ ト 部	① 城 乾 小	越 智 紳 一 郎	6 年
	② 城 東 小	合 田 吉 宏	5 年
	③ 城 西 小	久 保 山 学	5 年

【坂 出 市】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 中 央 小	旅 田 敏 弘	6 年
	② 東 部 小	田 井 敏 之	5 年
	③ 西 庄 小	田 中 秀 年	専 科
研 究 部	① 府 中 小	福 家 光 洋	6 年
	② 中 央 小	高 尾 久 美 子	T ・ T
	③		
基 テ 礎 ス ト 部	① 櫃 石 小	大 西 浩 史	5 ・ 6 年
	② 西 部 小	岡 本 敏 英	3 年
	③		

【小 豆 郡】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 豊 島 小	塩 見 強	同 主
	② 土 庄 小	林 宗 利	5 年
	③		
研 究 部	① 安 田 小	役 重 和 雅	6 年
	② 土 庄 小	川 井 慶 太	6 年
	③		
基 テ 礎 ス ト 部	① 苗 羽 小	高 畠 一 友	3 年
	②		
	③		

【大 川 郡】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 相 生 小	高 田 宏 隆	3 年
	② 誉 水 小	沖 肅 二	5 年
	③ 三 本 松 小	永 坂 邦 彦	4 年
研 究 部	① 津 田 小	松 村 和 仁	5 年
	② 松 尾 小	穴 吹 眞 二	3 年
	③ 富 田 小	橋 本 義 人	5 年
基 礎 ス ト 部	① 津 田 小	竹 内 久 司	3 年
	② 志 度 小	梅 本 明 宏	4 年
	③ 相 生 小	高 田 宏 隆	3 年

【木 田 郡】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 平 井 小	田 岡 直 樹	3 年
	② 平 井 小	佐 伯 光 子	6 年
	③ 白 山 小	藤 岡 正 樹	5・6年
研 究 部	① 庵 治 小	黒 田 規 代	4 年
	② 庵 治 小	川 西 和 代	3 年
	③ 牟 礼 南 小	小 比 賀 容 子	3 年
基 礎 ス ト 部	① 牟 礼 北 小	泉 聡	4・5年
	② 氷 上 小	脇 広 久	4 年
	③ 白 山 小	藤 岡 正 樹	5・6年

【香 川 郡】

		学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	代 表 者	① 大 野 小	小 原 敏 昭	4 年
		② 香 南 小	山 田 俊 也	6 年
		③ 塩 江 小	長 岡 伸 幸	6 年
女 子 部	代 表 者	① 川 東 小	小 比 賀 節 子	3 年
		② 浅 野 小	川 田 康 代	2 年
		③ 大 野 小	中 田 由 紀 恵	6 年
	補 助	② 浅 野 小	川 村 千 寿	5 年
		③ 直 島 小	竹 原 千 奈 理	3 年
研 究 部	代 表 者	① 大 野 小	野 土 裕 彦	3 年
		② 川 東 小	喜 岡 永 光	4 年
		③ 香 南 小	高 岡 直 子	5 年
資 料 部	代 表 者	① 大 野 小	野 土 裕 彦	3 年
		② 安 原 小	前 田 宏 之	5・6年
		③ 安 原 小	橋 本 英 敏	5 年

【綾 歌 郡】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 国 分 寺 北 部 小	宇 山 知 昌	4 年
	② 国 分 寺 南 部 小	田 中 直 樹	5 年
	③ 宇 多 津 北 小	波 多 誠	6 年
研 究 部	① 国 分 寺 南 部 小	眞 井 孝 征	4 年
	② 富 熊 小	末 澤 康 彦	年
	③ 飯 山 北 小	氏 家 敏 文	3 年
基 礎 ス ト 部	① 羽 床 上 小	宮 武 克 明	6 年
	② 国 分 寺 南 部 小	平 野 希 代 子	4 年
	③ 陶 小	山 内 雅 子	4 年

【仲多度郡・善通寺市】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 中 央 小	岩 崎 保 雄	6 年
	② 琴 平 小	片 井 功	3 年
	③ 満 濃 南 小	高 橋 義 徳	障 害 児
研 究 部	① 東 部 小	森 昭 二	5 年
	② 多 度 津 小	坂 倉 徹	6 年
	③ 四 条 小	北 分 英 樹	6 年
基 礎 ス ト 部	① 仲 南 北 小	高 家 和 彦	5 年
	② 南 部 小	藤 六 健	専 科
	③ 中 央 小	篠 原 正 議	3 年

【三 豊 郡】

	学 校 名	氏 名	担当学年
定 例 会	① 柞 田 小	白 杵 優	5 年
	② 辻 小	宮 武 昭 裕	3 年
	③		
研 究 部	① 詫 間 小	赤 坂 光 敏	5 年
	② 本 山 小	合 田 雅 気	6 年
	③		
基 テ礎 スト 部	① 高 室 小	三 崎 彰 夫	5 年
	② 栗 島 小	萬 亀 弘 吉	6 年
	③ 松 崎 小	石 川 博 健	障 害 児

平成11年度 香川県小学校社会科教育研究会名簿

高松市

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	760-0012	瀬戸内町18-2	日 新	教頭	野 島 悟	087 861-5702	
2	760-0020	錦町2-14-1	二 番 丁 小	校長	上 枝 幸 紀	851-3741	
3	760-0017	番町1-5-1	四 番 丁 小	校長	川 田 裕 史	851-8390	
4	"	"	"	4	大 嶋 和 彦	"	
5	"	"	"	6	池 田 理 恵	"	
6	760-0006	亀岡町10-1	亀 阜 小	教頭	赤 松 よし子	861-2013	
7	"	"	"	6	上 井 嘉	"	
8	"	"	"	6	市 原 茂 幹	"	
9	"	"	"	4	山 下 真 弓	"	
10	760-0073	栗林町2-10-7	栗 林 小	4	寺 島 幹 人	861-3438	
11	"	"	"	3	真 鍋 康 秀	"	
12	"	"	"	3	高 木 恭 子	"	
13	760-0061	築地町14-1	築 地 小	3	福 家 親 夫	831-7188	
14	760-0060	末広町5	新塩屋町小	T T	高 橋 洋 子	851-2011	
15	"	"	"	4	大 橋 けい子	"	
16	"	"	"	5	岡 本 英 孝	"	
17	761-8052	松並町636-1	鶴 尾 小	5	黒 川 浩 一	867-2564	
18	"	"	"	5	田 邊 裕一朗	"	
19	"	"	"	6	日 下 浩 子	"	
20	761-8071	伏石町845-1	太 田 小	6	金 崎 美 穂	865-4433	
21	760-0080	木太町3480-1	木 太 小	校長	上 川 敦 生	861-6337	
22	"	"	"	障	佐々木 誠	"	
23	"	"	"	3	木 村 ますみ	"	
24	"	"	"	6	南 原 志 伸	"	
25	761-0104	高松町398	古 高 松 小	4	宇喜多 孝 明	841-9204	
26	761-0113	屋島西町1205-1	屋 島 小	5	大 奥 洋 介	841-1538	
27	761-0322	前田東町819-3	前 田 小	1	横 井 裕 子	847-6562	
28	761-0312	東山崎町207-1	川 添 小	4	榎 貴 志	847-6055	
29	761-0301	林町1108-1	林 小	教頭	藤 田 和 代	865-6250	
30	"	"	"	5	井 上 泉	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
31	761-0301	林町1108-1	林 小 専		向 永 和 資	865-6250	
32	761-8084	一宮町672-1	一 宮 小 3		久 保 範 高	885-1764	
33	761-8046	川部町1552	川 岡 小 校長		宮 武 利 雄	885-1253	
34	"	"	"	障	黒 川 紀 子	"	
35	761-8044	円座町1630-2	円 座 小 5		福 家 正 人	885-2542	
36	761-8042	御厩町816	檀 紙 小 T T		亀 井 伸 治	885-1715	
37	"	"	"	3	小 西 宏 幸	"	
38	"	"	"	5	大 海 隆 志	"	
39	761-8032	鶴市町374-1	弦 打 小 校長		林 靖 子	881-3523	
40	"	"	"	5	増 田 泰 己	"	
41	761-0443	川島東町864-1	川 島 小 教頭		藤 本 一 郎	848-0050	
42	"	"	"	4	香 西 謙 二	"	
43	761-0446	東植田町2008	東 植 田 小 教頭		徳 田 仁 司	849-0062	
44	761-0447	菅沢町339	"	2	柏 徹 哉	893-0036	
45	760-0079	松縄町807-1	中 央 小 6		稲 田 耕 一	866-2938	
46	761-8073	太田下町1823-1	太 田 南 小 5		平 田 紀久夫	865-9395	
47	"	"	"	6	姫 田 朋 樹	"	
48	"	"	"	6	島 田 しおり	"	
49	760-0080	木太町1530-1	木 太 南 小 6		安 倍 幸 則	866-7295	
50	761-0111	屋島東町942-1	屋 島 東 小 5		木 村 悦 子	843-8402	
51	760-0017	番町5-1-55	附属高松小 2		喜 多 文 彦	861-7108	
52	"	"	"	5	寺 嶋 俊 秀	"	
53	"	"	"	3	亀 井 健 男	"	
54	"	"	"	6	日 下 哲 也	"	
55	"	"	"	1	三 木 省 二	"	

丸亀市

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	763-0033	中府町5-15-1	城 乾 小 4		高 木 京 子	0877 22-8158	
2	"	"	"	6	越 智 紳一郎	"	
3	763-0051	今津町348	城 坤 小 3		岡 田 陽 一	24-4705	
4	"	"	"	5	森 川 宏 子	"	
5	"	"	"	6	寒 川 英 樹	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
6	763-0002	瓦町95	城 北 小	5	高 木 弘 信	24-4700	
7	763-0026	六番丁12	城 西 小	3	中 川 忠 彦	22-9267	
8	"	"	"	4	末 包 敬 三	"	
9	"	"	"	5	久保山 学	"	
10	763-0071	田村町973	城 南 小	1	香 川 浩 子	24-6177	
11	"	"	"	2	亀 井 雅 子	"	
12	"	"	"	4	多 田 明 広	"	
13	"	"	"	6	山 野 正 登	"	
14	"	"	"	教務	氏 家 雅 子	"	
15	763-0081	土器町西5-113	城 東 小	6	合 田 吉 宏	24-4703	
16	763-0091	川西町北151	城 辰 小	3	中 西 昇	28-7401	
17	763-0093	郡家町790-1	郡 家 小	3	大喜多 峯 子	28-8401	
18	"	"	"	5	樋 口 昌 樹	"	
19	763-0086	飯野町西分113	飯 野 小	6	佐々原 正 樹	22-6019	
20	"	"	"	教頭	香 川 佳 和	"	
21	"	"	"	校長	横 田 治	"	
22	763-0095	垂水町1408	垂 水 小	専	平 澤 昌 司	28-7551	
23	763-0102	広島町江の浦439	広 島 小	5	小 山 善 弘	29-2031	
24	"	"	"	教頭	長 原 朱 実	"	
25	763-0108	広島町小手島2782	小 手 島 小	5・6	石 川 裕 之	29-2751	

坂出市

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	762-0042	白金町1-3-7	西 部 小	専科	野 村 亮 子	0877 46-2149	
2	"	"	"	3	岡 本 敏 英	"	
3	762-0043	寿町3-1-2	中 央 小	校長	丸 野 昭 善	46-2124	
4	"	"	"	教頭	亀 井 彰	"	
5	"	"	"	6	旅 田 敏 弘	"	
6	"	"	"	TT	高 尾 久美子	"	
7	"	"	"		丸 岡 小百合	"	
8	"	"	"		河 野 富 男	"	
9	"	"	"		丸 尾 ルミ子	"	
10	"	"	"	内留	白 川 豊 浩	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
11	762-0007	室町1-1-21	東 部 小	校長	丸 野 忠 義	46-0234	
12	"	"	"	障	多田羅 洋 子	"	
13	"	"	"	5	田 井 敏 之	"	
14	"	"	"	5	地 下 浩 文	"	
15	"	"	"	内留	吉 田 和 弘	"	
16	762-0033	谷町3-1-23	金 山 小	教頭	車 谷 淳 一	46-2329	
17	762-0021	西庄町524-2	西 庄 小	専科	田 中 秀 年	46-2662	
18	762-0012	林田町2191	林 田 小	校長	大 前 正 昭	47-0270	
19	762-0023	加茂町1099	加 茂 小	校長	廣 田 秀 雄	48-0601	
20	762-0024	府中町1193-3	府 中 小	6	福 家 光 洋	48-0610	
21	"	"	"	5	沼 田 久仁子	"	
22	762-0025	川津町3093-1	川 津 小	校長	大 本 珠 城	46-3884	
23	"	"	"	教頭	鈴 木 清 子	"	
24	"	"	"	4	栗 林 由里子	"	
25	"	"	"		真 鍋 由紀子	"	
26	762-0017	高屋町1050	松 山 小	3	大 西 祐 子	47-0606	
27	762-0067	瀬居町1490	瀬 居 小		熊 本 けい子	46-9194	
28	762-0066	沙弥島152	沙 弥 小	3	香 川 和 美	45-6016	
29	762-0071	与島町263	与 島 小	校長	森 口 訓 行	43-0101	
30	762-0073	櫃石585-17	櫃 石 小	教頭	金 井 宏 諾	43-0203	
31	"	"	"	5・6	大 西 浩 史	"	
32	762-0031	文京町2-4-2	附 坂 小	4	福 岡 和 信	46-2692	
33	"	"	"	6	佐 柳 仁	"	

小豆郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	761-4106	土庄町甲657-7	土 庄 小	5	林 宗 利	0879 62-0068	
2	"	"	"	障	羽 座 則 史	"	
3	"	"	"	6	川 井 慶 太	"	
4	761-4101	土庄町甲3417	戸 形 小	3	山 本 弘 子	62-0108	
5	761-4121	土庄町湊崎甲1256	湊 崎 小	教頭	池 田 孝 徳	62-0072	
6	"	"	"	障	福 井 健 文	"	
7	761-4151	土庄町肥土山甲1735	大 鐸 小	3	岡 亨	62-0712	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
8	761-4145	土庄町大部甲1975	大 部 小	6	馬 場 直 明	67-2120	
9	761-4143	土庄町見目甲1587	北 浦 小	6	蘆 原 秀 稔	65-2021	
10	761-4131	土庄町伊喜末381	四 海 小	4	黒 川 大 介	64-5051	
11	761-4661	土庄町豊島家浦2516	豊 島 小	同主	塩 見 強	68-2020	
12	761-4301	池田町池田1760	池 田 小	校長	藤 川 治 之	75-2222	
13	"	"	"	3	森 玲 子	"	
14	761-4432	内海町草壁本町632-1	星 城 小	障	松 岡 典 子	82-2011	
15	761-4411	内海町安田甲472-1	安 田 小	6	役 重 和 雅	82-2012	
16	761-4421	内海町苗羽甲1371-1	苗 羽 小	3	高 畠 一 友	82-2013	
17	761-4402	内海町福田甲718-1	福 田 小	3	青 木 隆 明	84-2023	

大川郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	769-2903	引田町南野204	相 生 小	教頭	大 岡 眞 海	0879 33-3627	
2	"	"	"	3	高 田 宏 隆	"	
3	769-2901	引田町引田2083	引 田 小	4	向 山 智恵子	33-2036	
4	769-2705	白鳥町白鳥525	白 鳥 小	校長	熊 田 正 美	25-2642	
5	"	"	"	4	古 澤 哲 夫	"	
6	769-2702	白鳥町松原167-1	本 町 小	4	栗 島 博 人	25-3064	
7	769-2601	大内町三本松862-1	三 本 松 小	4	永 坂 邦 彦	25-2664	
8	769-2605	大内町中筋425	誉 水 小	5	沖 肅 二	25-2044	
9	761-0904	大川町田面125	松 尾 小	校長	八 木 育 夫	43-3016	
10	"	"	"	3	穴 吹 眞 二	"	
11	761-0901	大川町富田西2595-2	富 田 小	校長	小 倉 健 治	43-2016	
12	"	"	"	5	橋 本 義 人	"	
13	"	"	"	4	岡 田 保	"	
14	769-2321	寒川町石田東甲425	石 田 小	3	山 下 博	43-2006	
15	"	"	"	5	江 崎 衣 代	"	
16	"	"	長尾育成センター (石 田 小)		廣 瀬 強	"	
17	769-2323	寒川町神前1615	神 前 小	6	西 山 雅 道	43-2124	
18	769-2312	長尾町造田是弘688-1	造 田 小	校長	高 橋 英 武	52-2141	
19	"	"	"	教頭	佐 藤 正 文	"	
20	"	"	"	3	國 方 歳 子	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
21	769-2312	長尾町造田是弘688-1	造 田 小	3	渡 辺 かおり	52-2141	
22	769-2301	長尾町東901-1	長 尾 小	校長	古 市 聖 治	52-3181	
23	769-2101	志度町大字志度727	志 度 小	教頭	三 井 重 彰	087 894-0041	
24	"	"	"	4	梅 本 明 宏	"	
25	"	"	"	2	平 井 アイ子	"	
26	769-2401	津田町津田144	津 田 小	5	松 村 和 仁	0879 42-2047	
27	"	"	"	3	竹 内 久 司	"	
28	769-2402	津田町鶴羽781-2	鶴 羽 小	6	六 車 浩	42-2041	
29	769-2301	長尾町東888-5	長尾町教育委員会 事務局		大 高 哲 也	52-2511	

木田郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	761-0130	庵治町790-1	庵 治 小	4	黒 田 規 代	871-2581	
2	"	"	"	3	六 車 幸 恵	"	
3	761-0122	牟礼町大町1560	牟 礼 小	5	脇 多佳子	845-9239	
4	761-0122	牟礼町大町1115-1	牟 礼 南 小	3	小比賀 容 子	845-9324	
5	761-0612	三木町氷上2845	氷 上 小	4	脇 広 久	898-0710	
6	761-0702	三木町平木710-1	平 井 小	6	佐 伯 光 子	898-0713	
7	"	"	"	3	田 岡 直 樹	"	
8	761-0121	牟礼町牟礼2900-1	牟 礼 北 小	4・5	泉 聡	845-5742	
9	761-0704	三木町下高岡352-1	白 山 小	3	檜 原 一 宏	898-0257	
10	"	"	"	5・6	藤 岡 正 樹	"	
11	"	"	"	5	小笠原 学	"	
12	761-0130	庵治町790-1	庵 治 小	教頭	山 下 晃	871-2581	
13	761-0822	三木町奥山987	神 山 小	校長	藤 原 政 志	899-0254	

香川郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	761-1701	香川町大野1045-1	大 野 小	校長	植 松 勝	087 885-2165	
2	761-3110	直島町1600	直 島 小	教頭	西 康比古	892-3007	
3	761-1502	塩江町安原下2号1684	安 原 小	5・6	前 田 宏 之	897-0008	
4	761-1612	塩江町安原上東365	塩 江 小	6	長 岡 伸 幸	893-0027	
5	"	"	"	5	橋 本 英 敏	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
6	761-1701	香川町大野1045-1	大 野 小	4	小 原 敏 昭	885-2165	
7	"	"	"	3	野 土 裕 彦	"	
8	"	"	"	6	中 田 由紀恵	"	
9	761-1703	香川町浅野3088	浅 野 小	2	川 田 康 代	889-0215	
10	"	"	"	5	川 村 千 寿	"	
11	761-1706	香川町川東上1865-8	川 東 小	3	小比賀 節 子	879-2012	
12	"	"	"	4	喜 岡 永 光	"	
13	761-1404	香南町横井1008	香 南 小	6	山 田 俊 也	879-2269	
14	"	"	"	5	高 岡 直 子	"	
15	761-3110	直島町1600	直 島 小	3	竹 原 千奈理	892-3007	

綾歌郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	761-2203	綾上町山田上甲1494-1	山 田 小	5	青 木 弥 生	087 878-2004	
2	761-2202	綾上町粉所西甲2060	粉 所 小	6	高 吉 直 之	878-2312	
3	761-2207	綾上町羽床上788-1	羽 床 上 小	校長	関 根 建 一	878-0820	
4	"	"	"	6	宮 武 克 明	"	
5	761-2305	綾南町滝宮1100	滝 宮 小	校長	山 崎 敏 和	876-1183	
6	"	"	"	4	土 岐 味代子	"	
7	"	"	"	5	小 川 美 和	"	
8	761-2103	綾南町陶5878	陶 小	教頭	坂 東 博 文	876-1182	
9	"	"	"	5	横 関 由紀子	"	
10	"	"	"	4	山 内 雅 子	"	
11	761-2308	綾南町羽床下2256	羽 床 小	6	好 井 久 子	876-1184	
12	769-0101	国分寺町新居1880	国分寺北部小	4	宇 山 知 昌	874-1154	
13	"	"	"	4	中 尾 真 弓	"	
14	"	"	"	教頭	平 井 勉	"	
15	769-0103	国分寺町福家甲3005	国分寺南部小	6	林 聖 士	874-1160	
16	"	"	"	5	田 中 直 樹	"	
17	"	"	"	4	平 野 希代子	"	
18	"	"	"	4	眞 井 孝 征	"	
19	"	"	"	3	福 家 優 子	"	
20	761-2402	綾歌町岡田下217	岡 田 小	校長	松 下 繁 美	0877 86-3004	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
21	761-2402	綾歌町岡田下217	岡 田 小	4	徳 永 桂 子	0877 86-3004	
22	"	"	"		太 田 和 美	"	
23	761-2407	綾歌町富熊1227	富 熊 小		末 澤 康 彦	86-2010	
24	"	"	"	6	中 野 昇 一	"	
25	762-0082	飯山町川原1874	飯 山 北 小	3	氏 家 敏 文	98-2020	
26	"	"	"	4	久保田 佳代子	"	
27	762-0084	飯山町上法軍寺1206	飯 山 南 小	4	多田羅 千鶴子	98-2024	
28	769-0210	宇多津町815	宇 多 津 小	5	國 友 良 純	49-1820	
29	796-0208	宇多津町浜八番丁115	宇多津北小	4	水 本 功	49-2000	
30	"	"	"	6	波 多 誠	"	

仲多度・善通寺

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	766-0013	満濃町東高篠139	高 篠 小	5	吉 村 富士代	0877 73-3842	
2	766-0021	満濃町四條728	四 条 小	6	北 分 英 樹	73-5514	
3	766-0023	満濃町吉野74	満 濃 南 小	障	高 橋 義 徳	79-2110	
4	766-0017	満濃町炭所西1431-2	長 炭 小	校長	山 下 清 明	79-2006	
5	766-0201	琴南町造田1984-1	西 小	教頭	森 本 義 臣	85-2010	
6	769-0303	仲南町七箇2529	仲 南 東 小	4	澤 田 恵 子	77-2140	
7	769-0319	仲南町十郷字追上下 大口20	仲 南 西 小	3	横 川 正 信	77-2310	
8	769-0312	仲南町十郷字宮田 750-4	仲 南 北 小	校長	三 井 尚	75-4032	
9	"	"	"	6	谷 口 時 美	"	
10	"	"	"	5	高 家 和 彦	"	
11	766-0002	琴平町145-1	琴 平 小	3	片 井 功	73-2831	
12	"	"	"	6	山 内 秀 則	"	
13	"	"	"	TT	浅 見 剛 巳	"	
14	766-0006	琴平町上櫛梨26	象 郷 小	教頭	大 平 正 貴	73-2830	
15	764-0032	多度津町三井433-1	四 箇 小	4	森 井 信 一	32-2517	
16	"	"	"	3	芝 和 世	"	
17	764-0035	多度津町奥白方1142	白 方 小	6	亀 山 典 良	32-3331	
18	764-0026	多度津町南鴨704	豊 原 小	2	香 川 敦 子	32-2050	
19	"	"	"	5	山 田 泰 二	"	
20	"	"	"	4	森 啓 太	"	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
21	764-0011	多度津町栄町三丁目 1-9	多 度 津 小	6	坂 倉 徹	33-1616	
22	765-0013	善通寺市文京町四丁目 5-1	中 央 小	6	岩 崎 保 雄	62-1616	
23	"	"	"	3	篠 原 正 議	"	
24	765-0004	善通寺市善通寺町1146	西 部 小	3	中 野 文 子	62-0701	
25	765-0053	善通寺市生野町2990-1	南 部 小	専科	藤 六 健	62-0702	
26	765-0022	善通寺市稲木町450-1	東 部 小	5	森 昭 二	62-0703	
27	765-0040	善通寺市与北町1238	与 北 小	校長	伊 崎 義 晴	62-0704	
28	"	"	"	5	大久保 敬 現	"	
29	765-0032	善通寺市原田町306-1	竜 川 小	1	佐々木 和 恵	62-0705	
30	765-0073	善通寺市中村町1575-2	筆 岡 小	4	福 崎 美 穂	62-0706	
31	765-0061	善通寺市吉原町2811	吉 原 小	校長	梅 木 正 信	62-0707	

三豊郡

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自宅電話
1	769-1602	三・豊浜町大字和田浜 1000	豊 浜 小	校長	大 山 正 子	0875 52-2029	
2	"	"	"	校長	岩 倉 隆 視	"	
3	"	"	"	3	近 藤 あけみ	"	
4	"	"	"	2	清 水 裕 子	"	
5	769-1614	三・大野原町大字萩原 2354	萩 原 小	校長	渡 邊 重 忠	54-2079	
6	769-1611	三・大野原町大字 大野原1905	大 野 原 小	4	高 橋 克 佳	54-2029	
7	768-0040	観・柞田町乙1000-1	柞 田 小	5	臼 杵 優	25-3621	
8	768-0071	観・伊吹町309番地	伊 吹 小	5	安 藤 雅 慶	29-2103	
9	768-0012	観・植田町365	常 磐 小	校長	大 西 孝 典	25-2988	
10	768-0033	観・新田町1413	豊 田 小	校長	各 務 清	27-6303	
11	768-0060	観・観音寺町甲1186-2	観 音 寺 南 小	障害	岸 上 也 寸 志	25-4675	
12	768-0002	観・高屋町1877-1	高 室 小	5	三 崎 彰 夫	25-2661	
13	768-0101	三・山本町大字辻1375	辻 小	3	宮 武 昭 裕	63-2037	
14	769-1506	三・豊中町大字本山甲 1893	本 山 小	6	合 田 雅 気	62-2125	
15	769-1504	三・豊中町上高野2384	上 高 野 小	校長	西 谷 則 一	62-2064	
16	"	"	"	6	安 藤 通	"	
17	"	"	"	専科	三 好 啓 治	"	
18	769-1502	三・豊中町大字笠田 笠田2191	笠 田 小	校長	田 井 秀 典	62-2004	
19	767-0011	三・高瀬町大字下勝間 803	勝 間 小	専科	宮 武 一 美	72-5329	

番号	郵便番号	学 校 所 在 地	学 校 名	学年	会 員 氏 名	学校電話	自 宅 電 話
20	767-0013	三・高瀬町大字下麻 1209	麻 小	校長	前 田 高 次	74-6237	
21	"	"	"	4	高 濱 淳 子	"	
22	"	"	"	T T	野 田 明 子	"	
23	767-0004	三・高瀬町比地93	比 地 小	障	大久保 進	72-5213	
24	"	"	"	6	深 川 隆	"	
25	769-1403	三・仁尾町大字仁尾丙 1736	仁 尾 小	4	小 西 寛	82-2049	
26	769-1101	三・詫間町大字詫間 2158	詫 間 小	5	赤 坂 光 敏	83-2858	
27	769-1104	三・詫間町大字大浜甲 1633-1	大 浜 小	6	秋 元 一 秀	84-7359	
28	769-1108	三・詫間町大字粟島 1506-2	粟 島 小	教頭	安 藤 清 和	84-7012	
29	"	"	"	6	萬 亀 弘 吉	"	
30	769-1102	三・詫間町大字松崎 722	松 崎 小	6	名 越 盟 人	83-2856	
31	"	"	"	障	石 川 博 健	"	

